

JA共済の
地域貢献活動 **2012**



全国共済農業協同組合連合会 (JA共済連)

〒102-8630 東京都千代田区平河町2-7-9 JA共済ビル
TEL.03-5215-9160 (広報部地域貢献室)

<http://social.ja-kyosai.or.jp>



Contents —目次—

J A 共済の地域貢献活動 2012



p.3 ごあいさつ

p.5 はじめに



p.9 交通事故対策活動

- 9 交通安全教室(幼児向け)
- 10 JA共済アンパンマン交通安全キャラバン
- 11 交通安全教室(高齢者向け)
- 12 安全運転診断
- 13 3つの交通事故対策支援活動
- 14 自転車の交通安全教育支援
- 15 介助犬の育成・普及支援活動
- 16 リハビリテーション
- 17 各種団体への支援等



p.18 健康管理・増進活動

- 18 笑いと健康教室
- 19 レインボー体操
- 20 健康・介護ほっとライン
- 20 健康診断・人間ドック助成



p.21 高齢者・障がい者福祉活動

- 21 高齢者集団保養検診
- 21 介護福祉士養成奨学金・助成金
- 22 身体障がい者ホームヘルパー・介護職員養成助成
- 22 在宅介護施設建設資金助成
- 23 介護機器等購入費用助成



p.24 宿泊保養施設運営



p.25 災害救援活動

- 25 仮設住宅・災害シート



p.29 Comments
(東京大学 高齢社会総合研究機構特任教授/辻 哲夫氏)

p.31 ムーログ/
サンドアートCM

p.32 Information

p.40 都道府県独自の
地域貢献活動
実施概要



p.27 環境保全活動

- 27 CO₂削減への
取り組み
- 28 リボンキャンペーン



p.26 文化支援活動

- 26 「書道」
「交通安全ポスター」
コンクール

JA共済は、「安心」と「信頼」で、 地域をつなぎます。

「JA共済 地域貢献活動のご報告2012」をお届けいたします。

日頃よりJA共済事業をお引き立ていただき、厚くお礼申し上げます。

JA共済は、農業協同組合が理念とする「相互扶助（助け合い）」を事業活動の原点とし、事業開始より60年余、幸せの輪を広げるべく事業活動を展開してまいりました。

多くの方々にご利用いただくことで、平成23年度では4兆3,361億円もの満期共済金・事故共済金をお支払いし、組合員・利用者の皆さまの生活保障や、自然災害等からの復旧・復興にお役立ていただくことができました。なお、国内観測史上最大規模となった東日本大震災にかかる共済金につきましては、23年度末までで8,900億円を超える過去最大のお支払いとなっています。

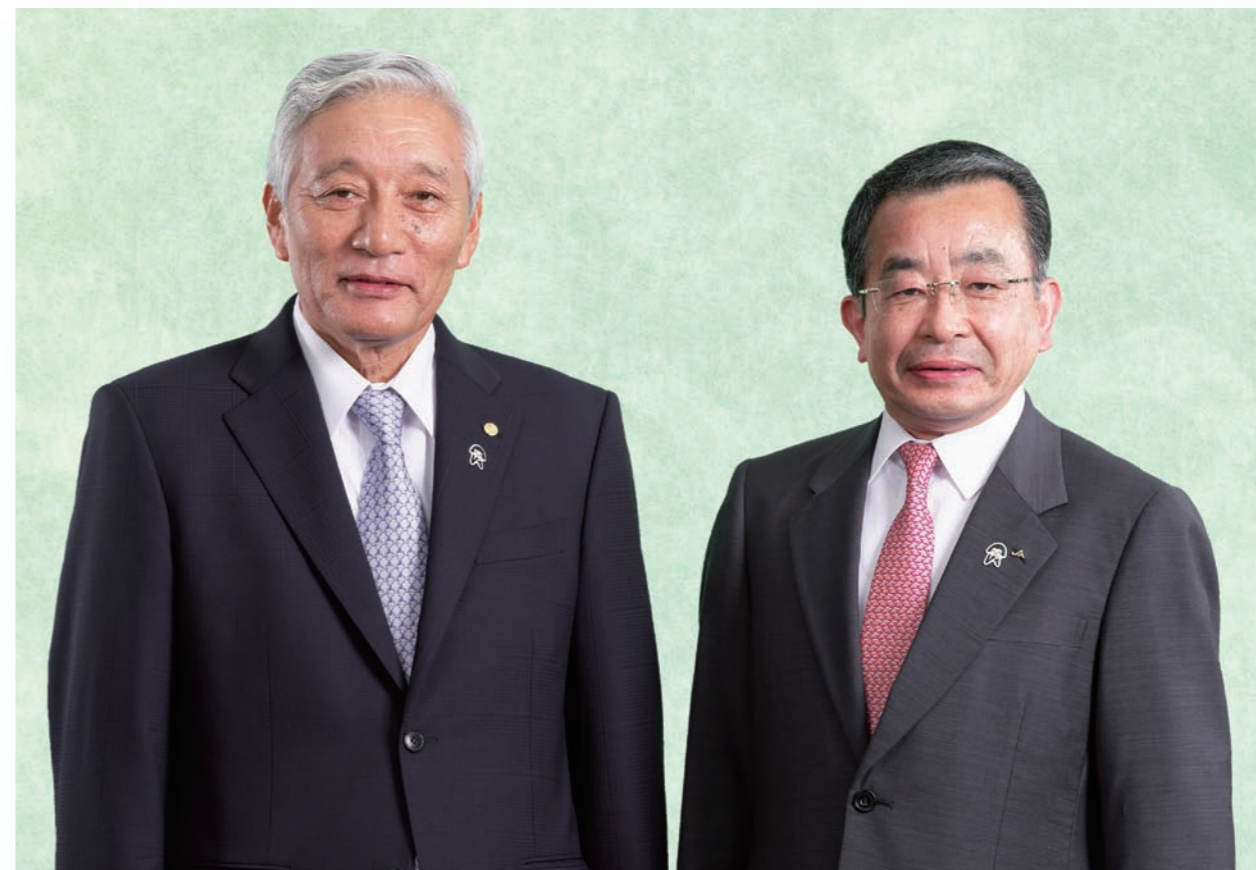
さらに、JA共済では、健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりのため、交通事故対策活動、健康管理・増進活動、高齢者・障がい者福祉活動、災害救援活動、文化支援活動、環境保全活動などの地域貢献活動に取り組んでまいりました。

震災発生以降、被災地の復旧・復興に向けて、日本全国、全世界に「助け合いの輪」が広がっており、「人と人とのつながり」や「支えあう地域の絆」の重要性が改めて認識されています。

JA共済では、これからも皆さまとの絆・地域との絆を大切にしながら、共済事業と地域貢献活動の積極的な取組みを通じて、豊かで安心して暮らすことのできる地域社会づくりに貢献してまいります。

本誌をご覧いただき、JA共済に対するより一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

東日本大震災により被害にあわれた皆さまと、今なお不自由な生活を強いられている方々に、心よりお見舞いを申し上げますとともに、復旧・復興に取り組まれている方々のご尽力に敬意を表します。



● 経営管理委員会会長
安田 舜一郎

● 代表理事理事長
横井 義則

JA共済は、「相互扶助（助け合い）」を事業理念としています。

～人と人との「絆」を深めたい～

「一人は万人のために、万人は一人のために」

日本の農村では、古くから共同体をつくり、お互いに支え合い、助け合って暮らしを営んできました。日常の農作業はもちろん、自然災害や火事などの災害時には、共同体全体で救済・援助を行いました。そうした歴史を背景に、農家組合員が協力して農業生産力の増進と経済的・社会的地位の向上を図ること、

そして、協同による事業活動を通じて、農家組合員の幸福と利益を実現することを目的に「農業協同組合（JA）」は生まれました。

JAの共済事業は、こうした相互扶助（助け合い）を事業理念として、自主的・民主的に運営されており、人間性の尊重や地域社会づくり、そして地域に暮らす人びとの絆づくりへの貢献をめざしています。



地域の皆さまが、健康で安心して暮らせる 環境づくりを。

J A 共済は、組合員・利用者の皆さまへ

最良の「安心」と「満足」を提供することを使命とし

これまで皆さまに支えられながら

日本でも屈指の事業規模を確保するまでに成長しました。

J A 共済が実施する

共済事業（保障提供）と地域貢献活動は

車の両輪の関係にあり、相互に機能することにより

「ひと・いえ・くるま」の生活総合保障と事故の未然防止・

事故後の相互扶助活動による安全・安心の輪を広げてきました。

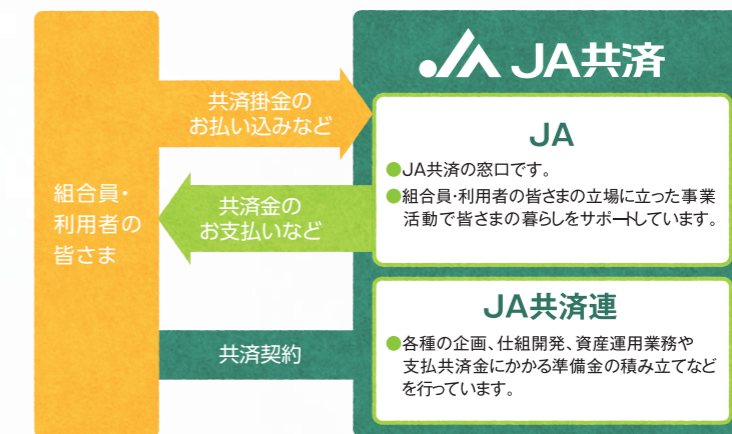
J A 共済は、今後も共済事業と地域貢献活動を通じて

地域との絆を強化し、組合員・地域住民の皆さまが

住み慣れた地域で健康で安心して暮らせる

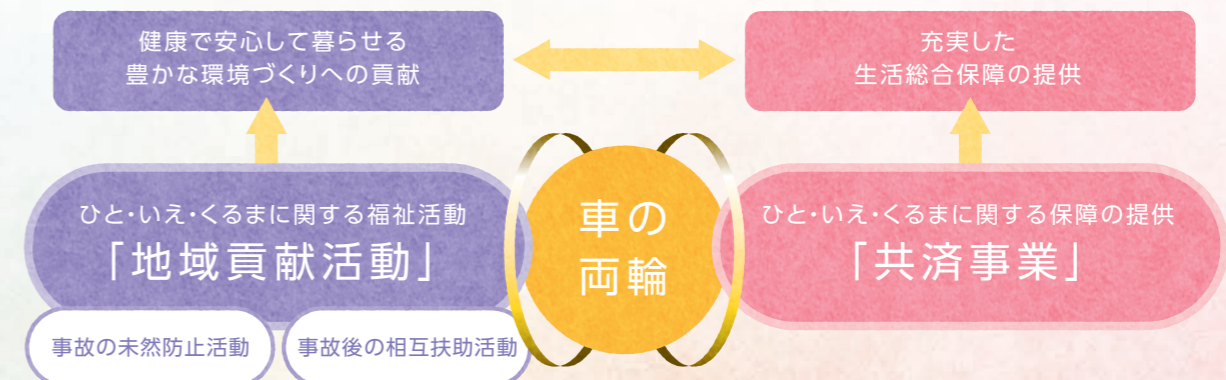
豊かな環境づくりに貢献していきたいと考えています。

J A 共済の役割と事業実施のかたち



- JA 共済は、JA の行うさまざまな事業の一環として、組合員・利用者の皆さまと共済契約を締結することによって、「ひと・いえ・くるまの総合保障」を提供しています。
- JA と JA 共済連は、共同で共済契約を締結し、それぞれの役割を担いながら、一体となって保障提供を行っています。

J A 共済の取り組み



共済事業

「ひと・いえ・くるま」の総合保障の提供を通じて、
組合員・利用者の皆さまの豊かな生活づくりに努めます。

ひと・いえ・くるま、大きく広がった保障の輪 (平成23年度 事業概要)



万一の保障はもちろん、医療保障も充実している生命総合共済

生命総合共済(保有)

加入件数：1,900万件 保障金額：157兆6,431億円



地震を含む自然災害や火災などの幅広い保障でマイホームを守る建物更生共済

建物更生共済(保有)

加入件数：1,087万件 保障金額：146兆776億円



確かな保障と充実したサービスの自動車共済・自賠償共済

自動車共済(保有)

加入件数：847万件

自賠償共済(保有)

加入台数：707万台

お役に立った 共済金

万一のときや満期のときなどに共済金をお支払いし、
皆さまにお役立ていただいています。

平成23年度にお支払いした共済金

4兆3,361億円

内訳

生命総合共済

万一のお支払い 5,921億円

満期等のお支払い 1兆5,815億円

建物更生共済

万一のお支払い 9,690億円

満期等のお支払い 8,456億円

自動車共済

..... 2,159億円

その他共済

..... 1,318億円

自然災害にも 確かな保障

巨大災害などのリスクに確実に備えるため、異常危険
準備金の積立てを行うとともに、海外への再保険も
行っています。

東日本大震災への対応状況(平成24年3月末現在)

自然災害による過去最大のお支払いとなっています。
皆さまの一日も早い復旧・復興に向けて総力を
あげて支援してまいります。

600,697件/8,508億円

平成23年度の主な自然災害に対する建物更生共済のお支払い

平成23年9月 台風15号(静岡他)

49,661件/193億円

過去の主な自然災害に対する建物更生共済のお支払い(平成7年以降)

平成7年1月:阪神・淡路大震災(兵庫・大阪・京都ほか)

101,535件/1,188億円

平成11年9月:台風18号(熊本・山口・鹿児島ほか)

180,030件/638億円

平成16年9月:台風18号(山口・熊本・福岡ほか)

284,556件/1,083億円

平成16年10月:新潟県中越地震(新潟・群馬・福島ほか)

87,647件/773億円

平成19年7月:新潟県中越沖地震(新潟・長野ほか)

32,289件/317億円

地域貢献活動

「事故の未然防止活動」と「事故後の相互扶助活動」を通じて組合員・利用者
の皆さまが健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりに貢献します。

1 交通事故対策活動

- 交通安全教室
- ドライビングシミュレーター
- 警察と連携した3つの交通事故対策活動
- 自転車事故防止対策
- 介助犬の育成・普及支援
- リハビリテーションセンターの開設
- 各種交通事故対策活動
- 各種団体への支援等



2 健康管理・増進活動

- 笑いと健康教室
- レインボー体操
- 健康・介護ほっとライン
- 健康診断・人間ドック助成



3 高齢者・ 障がい者福祉活動

- 高齢者・障がい者福祉活動助成
- 高齢者集団保養検診

4 宿泊保養施設運営



5 災害救援活動

- 仮設住宅貸与制度
- 災害シートサービス



6 文化支援活動

- 小・中学生書道・交通安全ポスター
コンクール



7 環境保全活動

- CO₂削減への取り組み
- リボンキャンペーン



01

交通事故を防ぐために

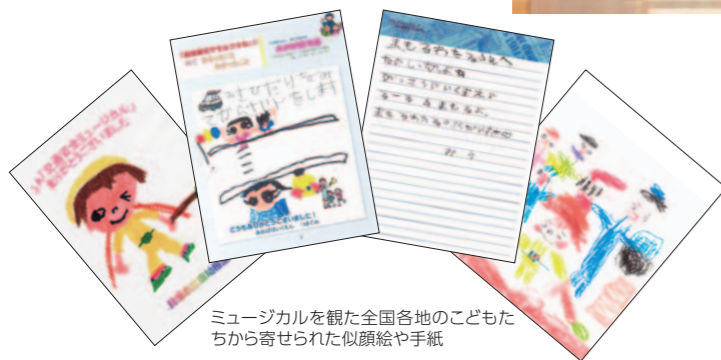
交通安全教室(幼児向け)

親と子の交通安全ミュージカル「魔法園児 マモルワタル」各地で開催
楽しい歌と踊りで交通ルールを学びます

就学前の幼稚園・保育園児と保護者を対象とした、ミュージカル形式の交通安全教室を全国各地で実施しています。このミュージカルは、舞台の上の横断歩道で園児が実際に体験できるなど、客席の園児、保護者の皆さんと舞台がひとつになって、楽しみながら交通ルールを学べる構成となっています。



●後援:内閣府/警察庁/国土交通省 ●推薦:財団法人 全日本交通安全協会



ミュージカルを観た全国各地のこどもたちから寄せられた似顔絵や手紙

園児たちの歌声が響き、会場は毎回盛況です。



ミュージカルはわかりやすい言葉と軽快なテンポで演じられ、子どもたちも一緒に声を出しながら交通ルールを学んでいます。「交通ルールを守ることの大切さが学べた」、「交通安全への意識づけになる」などと保護者の方々からもたくさんの反響をいただいています。

保護者の方々・先生の声

- マモルワタルのキャラクターがすごくかわいく、ダンスもあり安全な横断歩道の渡り方も楽しく覚えられました。園に帰ってもみんな練習します。
- 今日は素晴らしい心に残るミュージカルをありがとうございました。子どもたちも集中して見たり答えたりしていました。
- 歌や踊り、笑いもあって子どもたち最後までちゃんと見ていました。子どもにはしつこく繰り返し言い聞かせたほうがよいので、その意味でも非常によかったです。
- 大人も楽しく見ることができました。大切な子どもたちの命を守るためにも、もっと多くの人に見てもらいたいと思いました。

あらすじ

魔法界のマモルワタルは、いつも元気に飛び回っている魔法幼稚園のワンパク園児。あまりのワンパクさに魔法幼稚園の園長先生から人間界へ修行に送られます。そこで、園児スナオ君と警察官のお姉さんに助けられ、横断歩道の渡り方や信号機の意味など、交通ルールを学んでいきます……。



「交通安全ミュージカル」の実施規模

平成16年度から実施し、これまでに4,000以上の幼稚園・保育園を招待。18万人以上の園児・保護者の皆さんに楽しんでいただいています。

これまでの動員数

18万人以上

項目	年度	21	22	23	累計
実施回数		37	42	38	290
参加幼稚園数		567	693	699	4,244
動員数		24,516	28,246	24,499	185,508

※累計は平成16年度より

02

交通事故を防ぐために

JA共済アンパンマン交通安全キャラバン

「アンパンマン交通安全キャラバンカー」が全国を巡回し、
楽しいショーを通じて幼児に交通ルールを伝えます。

小さなお子さまに絶大な人気を誇るJA共済のイメージキャラクター「アンパンマン」。荷台部分がステージになるステージトラックで全国を巡回して行うステージショーは幼児や保護者に好評です。ショーを通じて交通安全を呼びかけ、親子で交通安全について考える時間を提供しています。



監修:一般財団法人 日本交通安全教育普及協会

主なショーの内容

- 「ドレミファアンパンマン」
アンパンマンたちと一緒に歌って踊ります。
- 交通ルールを学ぶ
アンパンマンたちが交通ルールについて話し合い、横断歩道の正しいわり方、道路への飛び出し注意などを呼びかけます。
- 「サンサンたいそう」
アンパンマンたちと一緒に踊ります。
- バルーンゲーム
信号機の色の意味を覚えてもらいます。
- 音当てクイズ
- まとめ
- 握手会

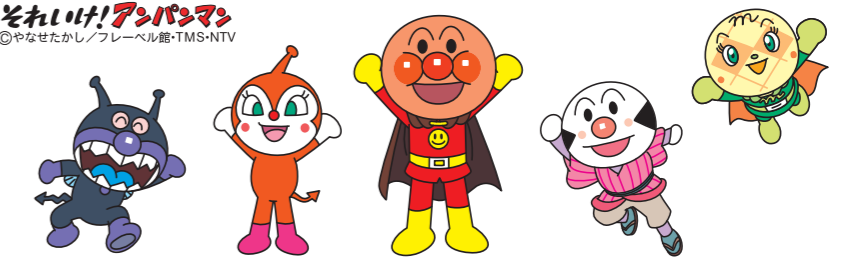


ショーの後は楽しい握手会でアンパンマンたちと触れ合います。



赤・青・黄色のキャラバンカーがとても目をひきます。

それいけ!アンパンマン
©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV



JA共済アンパンマン交通安全キャラバン実施規模

平成22年から実施し、これまでに全国延べ320会場、27万人以上を動員しました。

これまでの動員数

27万人以上

項目	年度	22	23	累計
実施会場数		151	169	320
動員数		130,610	148,739	279,349

03

交通事故を防ぐために

交通安全教室(高齢者向け)

落語を取り入れた交通安全教室を開催
全国の高齢者の方々に大好評です

事故のおよそ半数を占める高齢者の交通事故をなくすために、高齢者向け交通安全教室を開催しています。JA共済オリジナルの「交通安全落語」で笑いながら交通安全の意識を高め、「レインボー体操」で身体機能の低下を予防。誰でも楽しく参加できる内容になっています。



(平成24年7月現在)

交通安全教室のプログラム(所要時間:90分※) ※実施時間の目安です。

- 交通安全講話 15分
地域の警察、交通安全協会の方等による講話
- 身体機能の衰えに関するビデオ上映 15分
加齢に伴う身体機能の衰えに関するビデオ
- 敏捷性測定 10分
「にぎるくん」を使った敏捷性測定
- 交通安全体操 15分
加齢に伴う身体機能の低下を予防する「交通安全レインボー体操」
- 交通安全落語 30分
落語を通して、自分の危険行動を認識し楽しく交通安全を啓発



■体操で体を動かし、落語で笑い、心も体もリラックス!

参加した方々から
たくさん感想を
いただきました!

- 交通安全の大切さを再認識した。自分の住む地域から交通事故を絶対に出さないように心がけたいと思います。
- 特に体操はできるだけ続けたいと思った。落語もたいへんおもしろかったです。
- 久しぶりに身体を動かし、笑った。今後もこのような教室を開催してほしい。
- 笑いが多く、楽しい1日になりました。たいへん有意義な催しでした。今後も事故防止の企画をお願いします。
- 勉強になりました。ありがとうございました。

■「高齢者向け交通安全教室」の実施規模

平成17年度から実施し、7年間で1,200回以上開催、17万人以上の皆さんに参加いただいています。

これまでの
参加人数

17万人以上

項目	年度	21	22	23	累計
実施回数		215	293	312	1,271
参加者数		30,917	36,648	35,835	176,508

※累計は平成17年度より

04

交通事故を防ぐために

安全運転診断

ドライビングシミュレーター搭載車両「きずな号」で
安全運転をチェック

高齢ドライバーの交通事故を防ぐために、JA共済では、ドライビングシミュレーター搭載車両「きずな号」を全国7か所に配置し、巡回型の安全運転診断を行っています。過去の事例を参考に、事故を起こしやすい場面を再現したドライビングシミュレーターを使い、約10分間の講習で運転診断と安全運転のアドバイスが受けられる内容となっています。



■ドライビングシミュレーター

「きずな号」に搭載されたドライビングシミュレーターは、3面のモニターやスピーカーによって、実際の運転状況を再現。いままで自分では気づかなかった「うっかりミス」や運転の癖など、事故を起こしやすいところを認識することで、日頃の運転を見直し、安全運転を心掛けることができます。

■参加した方々の声

- 自分の運転を客観的に判断できてよかったです。自分では気づかないことが多かった。
- 交通事故の発生パターンを具体的に体験できたので良かったです。
- 年をとると判断が鈍くなるのはやむを得ないが、自分の今を知るのにとっても良い機会でした。
- 大変ためになりました。定期的に行うと常に初心に戻れそうで良いなと思いました。
- 自分では運転に自信があると思っていたが、診断を参考にして安全運転に努めたい。

■「ドライビングシミュレーター」の実施規模

平成20年度から取り組み、これまでに1,400回以上実施。多くの方々の運転診断を行っています。

これまでの実施回数

1,429回

項目	年度	21	22	23	累計
実施回数		292	279	277	1,429

※累計は平成20年度より

05

交通事故を防ぐために

3つの交通事故対策支援活動

警察等と連携した地域貢献活動 3つの交通事故対策を支援

地域の皆さまが安心して毎日を送ることができるように、JA共済では警察等と連携して、3つの交通事故対策を支援しています。歩行や自転車、そして自動車に関する安全など、日々の生活の中にある身近な視点で交通安全を呼びかけています。

■生徒向け自転車交通安全教育事業の支援



中学校や高等学校で行われる交通安全教室の際、危険な自転車走行に伴う交通事故の実演(スタントマン)により、生徒に危険性を疑似体験させる教育事業(スクエア・ストレイト教育技法)の推進を支援しています。

■交通安全ラッピングバス事業の支援

交通安全を呼びかける文字などのデザインを路線バス(路面電車)の車体に施す、ラッピングバス事業の推進を支援しています。



■交通安全横断旗配布事業の支援



©やなせたかし/フレーベル館・TMS・NTV

新入児童(小学1年生)を対象にアンパンマンを起用した交通安全横断旗を無償配布する事業を支援しています。

06

生徒たちの自転車事故を防ぐために

自転車の交通安全教育支援

自転車の交通安全に関するDVDと冊子を 中学校・高等学校に無償配布

自転車は多くの児童や生徒が通学や日常生活の中で使用しています。しかし身近な移動手段だけに交通安全に対する知識が十分でない10代の自転車事故が増え、交通ルール違反やマナーの悪さが社会問題になっています。子どもたちの自転車事故を防ぐためには、交通ルールを正しく理解し、安全運転に対する意識を高める取組みが欠かせません。JA共済ではこうした情勢を踏まえて、「自転車交通安全教育DVD」と「自転車交通安全ブック」を中学校や高等学校、特別支援学校に無償配布し、教育現場での指導を支援しています。DVDや冊子では「被害者になったときの痛み」と「加害者になったときの責任の重さ」という2つの視点から、実際に起こりやすい事例で、わかりやすく説明しています。

■自転車交通安全教育DVD(中学生・高校生対象)

事故発生件数のデータや、リアルな再現映像、加害者としての責任など、自転車事故を幅広い視点でとらえた収録内容です。



■自転車交通安全ブック(中学1年生対象)

交通安全の基本ルールから自転車事故の検証まで詳しく紹介。さらに自転車交通安全に関するクイズなど、興味を持って学べる内容です。



07

交通事故被害者の自立支援のために

介助犬の育成・普及支援活動

「介助犬」の育成・普及支援を通じて
交通事故被害者の社会復帰を応援しています



新聞を持ってくる

写真提供：NPO法人 日本介助犬アカデミー・社会福祉法人 日本介助犬協会

介助犬とは、交通事故などにより手足に障がいのある方の日常生活をお手伝いする犬のことです。JA共済では、介助犬の育成・普及支援に取り組み、介助犬の受入れに対する理解を促進するため、介助犬によるデ

モンストレーションやJA共済が企画・制作した介助犬の絵本の読み聞かせによる活動を通じ、障がい者の方の自立と社会復帰を支援しています。

■介助犬デモンストレーション

「ガンバレ！ 介助犬！ JA共済はたらくワンワンランド！」



●後援：厚生労働省

■絵本

「世界でいちばん幸せな犬」「ハナちゃんの帽子」



■介助犬のいろいろな仕事



靴下を脱がせる



冷蔵庫からペットボトルを持ってくる

■介助犬とは？

介助犬とは、身体の不自由な方の手助けをするために特別なトレーニングを積んだ犬のことをいいます。盲導犬が目の不自由な方の目となって障害物や曲がり角の存在を知らせるように、介助犬は肢体不自由者の手足となり、物を拾ったリドアを開閉した

りして日常生活における動作を補助します。「身体障害者補助犬法」により補助犬（介助犬、聴導犬、盲導犬）が公共の施設や交通機関に同伴立ち入りができるようになり、デパートやホテル、飲食店などの一般施設でも受入れが義務化されています。

08

交通事故被害者の社会復帰のために

リハビリテーション

2つのリハビリテーションセンターで
交通事故被害者などの社会復帰をお手伝いしています

JA共済のリハビリテーションセンターは、静岡県中伊豆と大分県別府にあります。これら2つのリハビリテーションセンターは、「病院」「福祉施設」「介護施設」の3つの機能を持った全国でも数少ない総合型の施設です。1973年の設立以来、「身体障がい者のしあわせ」と「福祉社会の建設に寄与すること」を理念として交通事故被害者などの社会復帰をお手伝いしています。



■リハビリテーションセンター利用者数（昭和48年度～平成23年度の累計）

	中伊豆 リハビリテーション センター	別府 リハビリテーション センター	合計
利用者数 (入院・入所者数)	17,919人	11,591人	29,510人



■農協共済 中伊豆リハビリテーションセンター

- 敷地面積／162,613m² ●建物床面積／25,332m²
- 利用定員／障害者支援施設140名、病院（回復期リハ病棟）110床、障害者短期入所事業8名、障害福祉サービス事業所20名（通所）、通所リハビリテーション事業110名
- 職員数／338人

入所・入院の
お問い合わせ先 静岡県伊豆市冷川1523-108
電話：(0558)83-2111



■農協共済 別府リハビリテーションセンター

- 敷地面積／151,984m² ●建物床面積／40,644m²
- 利用定員／障害者支援施設80名、病院（回復期リハ病棟）116床、福祉ホーム5名、障害福祉サービス事業所40名（通所）、通所リハビリテーション事業100名
- 職員数／279人

入所・入院の
お問い合わせ先 大分県別府市鶴見1026-10
電話：(0977)67-1711

09

交通事故被害者の社会復帰のために

各種団体への支援等

各種団体への支援等を通じた 地域貢献活動に取り組んでいます

JA関連医療機関の救急医療およびリハビリ医療の充実を図ることにより、交通事故被害者の救命や交通事故障がい者の社会復帰の支援を行っています。このほか交通事故の対策としてカーブミラーの設置、救急車の寄贈など、さまざまな支援活動を実施しています。また、ドクターヘリの普及促進支援も実施しています。東日本大震災では、全国から集結したドクターヘリが、孤立した病院の患者の救出など、被災者救援に貢献しました。



各種交通事故対策関連団体への支援

交通安全関連団体等への寄付(昭和49年～)

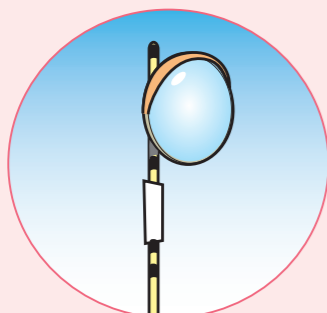
- 全日本交通安全協会への寄付(平成3年～)
- その他団体への寄付(昭和49年～)

交通事故被害者支援団体等への寄付(昭和47年～)

- 交通遺児育成基金への寄付(昭和55年～)
- その他団体への寄付(昭和47年～)

カーブミラーの設置

平成8年度からの累計 **21,701**基



救急車の寄贈

平成8年度からの累計 **263**台



救急リハビリ医療機器助成

交通事故被害者の救命や交通事故障がい者の社会復帰を促進することを目的として、JA関連医療機関の救急医療機器等の購入に対して助成を行っています。

交通事故医療研究助成

医師等の臨床研究を助成することで、交通事故医療の進歩発展を促進し、被害者の早期社会復帰に寄与しています。

10

健康であるために

笑いと健康教室

「笑い」の効果を取り入れたプログラム 皆さんで楽しめる健康教室です

近年、「笑い」がもたらす健康への効果がクローズアップされ、医療の現場でも導入されはじめています。JA共済では、健康増進活動のひとつとして「笑いと健康」に着目した教室を行っています。笑うことが身体にどんな変化をもたらすのかをビデオを通して学び、みんなで一緒に体操をしたり、ゲームを楽しんだりしながら、「笑い」による心と身体の変化を体験します。毎日の生活に「笑い」を取り入れて健康増進することを目的としています。



- ゲルマニウムプレスレット
- メタボメジャー
- 笑い与健康グッズ
- つぼ押し

教室の主な内容

- 笑い与健康ビデオ(前編)
- Oh! 笑い体操
- 笑い与健康ゲーム
- 笑い与健康ビデオ(後編)
- 落語
- 笑いヨガ



(笑い与健康ビデオより)



笑って! 食べて! 動いて! 健康ブック

日本医学大学名誉教授 吉野横一先生監修による笑いの効果や、症状別食事術&レシピ、レインボー体操等を掲載。健康情報満載です。



レクリエーションゲーム

家族やグループで楽しめるゲームが盛り沢山。体を使うものから頭の体操まで、盛り上がること間違いなしのゲームをご紹介します。



笑いヨガ

「笑い」の体操と「ヨガ」の呼吸法を組み合わせた「笑いヨガ」。体操として笑ううちに体が温まり気分も晴れる、誰にでもできる健康法を紹介しています。

「笑いと健康教室」の実施規模

平成19年度から実施し、これまでに5万3千人以上の皆さんが笑顔で参加しました。

過去5年間の参加人数

5万3千人以上

項目	年度	21	22	23	累計
実施回数		160	138	113	800
参加人数		11,151	9,643	6,943	53,943

※累計は平成19年度より

11

ずっと健康であるために

レインボー体操

健康増進に役立つレインボー体操
いつでも、どこでも、だれにでもできる体操です

JA共済がおすすめている健康増進のための体操です。立っても、座っても、寝たままでできますので、日頃運動をしていない方、体力に自信のない方、お年を召した方にも気軽に楽しんでいただけます。



■レインボー体操は、健康増進に役立っています

- レインボー体操は、JA共済が昭和59年に組合員の方々の健康増進のために、安全で楽しく続けることができる運動として開発しました。
- 考案者である二村ヤン子先生のリハビリ体験から生まれた体操です。
- 誰にでもできる簡単な動きで、「肩こり・腰痛の解消」「生活習慣病予防」「老化防止」「リフレッシュ」に効果が期待できます。
- 心臓に負担をかけないやさしい動きで、全身の血液の流れが良くなります。



■見ながら体操ができるDVDやさまざまな資料を提供しています。



■「レインボー体操」の実施規模

昭和58年度から実施。これまでに63万人以上の皆さんが実施しました。

過去29年間の参加人数

63万人以上

項目	年度	21	22	23	累計
実施回数		13,983	29,465	17,034	630,411

※累計は昭和58年度より

12

ずっと健康であるために

健康・介護ほっとライン

健康・介護ほっとラインは、これまで約6万人の方にご活用いただいています

健康や介護、育児についての悩みごと、気になることを看護師や介護支援専門員、医師、栄養士などが直接電話でお答えする電話相談サービスです。健康診断の結果等の疑問から、介護・育児についてのお困りのことなど、お気軽にご利用ください。全国どこからでも24時間・365日、無料でご利用いただけます。



■「健康・介護ほっとライン」の相談コール本数

これまでの利用人数
5万9千人以上

項目	年度	21	22	23	累計
コール本数		3,613	3,498	4,565	59,442

※累計は平成6年度より

13

ずっと健康であるために

健康診断・人間ドック助成

健康を願う方々のお手伝い
毎年たくさんの方々に助成しています

JA共済では、高まる健康意識に応えて、健康管理・増進を目的としたさまざまな福祉活動を行っています。共済加入者とそのご家族には、健康管理・維持のために、健康管理に不可欠な各種の健康診断や人間ドック受診の助成を行っています。



■「人間ドック・健康診断」の実施規模

過去の実施人数

人間ドック 209万人以上
健康診断 2,719万人以上

項目	年度	21	22	23	累計
人間ドック		51,721	54,946	45,047	2,094,516
健康診断		179,729	179,764	172,274	27,195,230

※累計は昭和50年度より

いつまでも安心して暮らすために
14 高齢者集団保養検診

JA共済では、農村の高齢化の進展に伴い、高齢者を対象に、保養施設などを利用して保養しながら健康診断を受ける高齢者集団保養検診を実施しています

■「高齢者集団保養検診」の実施規模

過去36年間の受診者数
198万人以上

項目	年度	21	22	23	累計
受診者数		15,687	14,940	15,332	1,983,870

※累計は昭和50年度より

いつまでも安心して暮らすために
15 介護福祉士養成奨学金・助成金

介護福祉士をめざしている方を支援しています

■「介護福祉士養成奨学金・助成金」の助成人数

これまでの助成人数
265人

項目	年度	21	22	23	累計
助成人数		5	14	47	265

※累計は平成6年度より

いつまでも安心して暮らすために
16 身体障がい者ホームヘルパー・介護職員養成助成

身体障がい者ホームヘルパー・介護職員養成研修会を終了した方に研修費用を助成しています

■「身体障がい者ホームヘルパー・介護職員養成」の助成人数

これまでの助成人数
36,343人

項目	年度	21	22	23	累計
助成人数		374	245	237	36,343

※累計は平成6年度より

いつまでも安心して暮らすために
17 在宅介護施設建設資金助成

JAが在宅介護施設を設置する場合の建設資金を助成しています

■「在宅介護施設建設資金」の助成施設数

これまでの助成施設数
228施設

項目	年度	21	22	23	累計
施設数		14	14	13	228

※累計は平成7年度より

18

いつまでも安心して暮らすために

介護機器等購入費用助成

JAが在宅サービスを実施するために
介護機器等を購入する際の費用を助成しています

「介護機器等購入費用」の助成施設数

これまでの助成施設数

248施設

項目	年度	21	22	23	累計
施設数		10	18	11	248

※累計は平成7年度より

19

契約者・組合員の健康管理・増進活動のために

宿泊保養施設運営

JA共済グループでは、「契約者サービス」および
「組合員に対する健康管理・増進活動への支援機能」として、
宿泊保養施設を運営しています

宿泊保養施設一覧

1 福島 奥飯坂
【摺上亭大鳥】
〒960-0201
福島県福島市
飯坂町字中ノ内24-3
TEL.024-542-4184
客室数:59室

2 神奈川 中川温泉郷
【あしがら荘】
〒258-0201
神奈川県足柄上郡
山北町中川448-2
TEL.0465-78-3621
客室数:21室

3 長野 黒姫温泉
【ホテルアスティくろひめ】
〒389-1303
長野県上水内郡信濃町
黒姫高原3884-298
TEL.026-255-3181
客室数:35室

4 長野 天徳温泉
【アスティかたおか】
〒399-0711
長野県塩尻市片丘字
東山9215-1401
TEL.0263-52-7600
客室数:26室

5 新潟 鶴の浜温泉
【鶴の浜ニューホテル】
〒949-3101
新潟県上越市
大瀬区雁子浜304
TEL.025-534-2622
客室数:36室

6 富山 雨晴温泉
【磯はなび】
〒933-0133
富山県
高岡市太田88-1
TEL.0766-44-6161
客室数:50室

7 石川 柴山温泉
【ホテル翠湖】
〒922-0402
石川県
加賀市柴山町し50
TEL.0761-74-5588
客室数:21室

8 愛知 三河湾三ヶ根山
【グリーンホテル三ヶ根】
〒444-0701
愛知県西尾市東幡豆町
入会山1-287
TEL.0563-62-4111
客室数:61室

9 兵庫 城崎温泉
【あさぎり荘】
〒669-6101
兵庫県豊岡市
城崎町湯島876
TEL.0796-32-2921
客室数:35室

10 和歌山 南紀白浜温泉
【癒しの宿 クアハウス白浜】
〒649-2211
和歌山県西牟婁郡
白浜町3102
TEL.0739-42-4175
客室数:42室

11 鳥取 鳥取温泉
【ホテルモナーク鳥取】
〒680-0834
鳥取県鳥取市
永楽温泉町403
TEL.0857-20-0101
客室数:116室

12 鳥取 はい温泉
【羽衣】
〒682-0715
鳥取県東伯郡湯梨浜町
はい温泉21-1
TEL.0858-35-3621
客室数:25室

13 島根 玉造温泉
【ホテル玉泉】
〒699-0201
島根県松江市
玉造町玉造53-2
TEL.0852-62-0021
客室数:121室

14 佐賀 武雄温泉
【ホテル春慶屋】
〒843-0022
佐賀県武雄市
武雄町大字武雄7407
TEL.0954-22-2101
客室数:24室

15 宮崎 日南海岸青島温泉
【青島サンクマール】
〒889-2164
宮崎県宮崎市
折生迫7408
TEL.0985-55-4390
客室数:40室

※ 3 4 10 の3施設は、JA共済連の子会社以外の関係団体が運営している施設です。

20 仮設住宅・災害シート

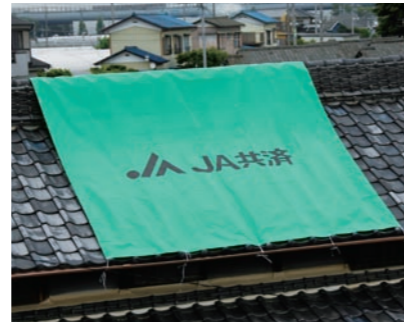
災害にあわれた方々のために

共済金のお支払いのほかにも
災害にあわれた方々への支援に取り組んでいます

JA共済のご契約者のお住まいが、台風などの自然災害や火災等で壊れて住めなくなってしまったときに「仮設住宅」を8か月間無償でお貸ししたり、台風などの自然災害で壊れてしまったときに「災害シート」を無償でお配りするサービスを提供しています。これらのサービスを通じて、ご契約者とそのご家族の災害からの生活の立て直しをサポートしています。



■JA共済仮設住宅貸与サービス
仮設住宅を8か月間無償でお貸しするサービスです。住宅だけでなくキッチン、トイレ、お風呂など暮らしに必要な生活用品をあらかじめ備えています。



■JA共済災害シートサービス
大規模災害時等にJA共済災害シートを無償でお配りするサービスです。
(大きさ:3.6m×5.4m(12畳))

※国や自治体が主体となって被災者救済を行う地震や台風などの大規模災害の場合には、対応できないことがあります。
※JA共済のご契約者で一定の要件を満たす方に限ります。

「災害シート」の配布枚数

これまでの配布枚数 **16万枚以上**

年度	21	22	23	累計
災害シート	8,246	82,699	17,448	169,285

※累計は平成16年度より

「災害シート」の主な配布状況

年度	主な配布状況
19年度	<ul style="list-style-type: none"> 能登半島地震：1,570枚 新潟県中越沖地震：4,550枚
20年度	<ul style="list-style-type: none"> 岩手・宮城内陸地震：2,660枚 岩手県沿岸北部地震：510枚
21年度	<ul style="list-style-type: none"> 台風9号：3,600枚 駿河湾地震：1,090枚
22年度	<ul style="list-style-type: none"> 東日本大震災：93,640枚

「仮設住宅」の貸与棟数

これまでの貸与棟数

1,800棟以上

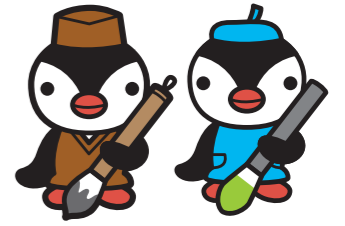
年度	21	22	23	累計
仮設住宅	170	136	88	1,872

※累計は昭和15年度より

21 「書道」「交通安全ポスター」コンクール

地域社会との絆を深めるために

立派な作品がたくさん寄せられ
日本でも最大規模のコンクールになっています



©2006 JA-KYOSAI

JA共済では、心の豊かさ、地域社会との絆づくりを大切にするとともに、JA共済の理念である助け合いの精神を次世代に伝えるため、小・中学生書道・交通安全ポスターのコンクールを実施しています。

■JA共済全国小・中学生書道コンクール

小・中学生の皆さんを対象にした全国規模の書道コンクールです。共済事業の「相互扶助・思いやりの精神」を次代に伝えていくこと、そして児童・生徒の書写教育に貢献することを目的に書道コンクールを実施しています。毎回、大人も顔負けの力作が集まります。



■農林水産大臣賞
江藤 陽輝さん(大分県・小学1年)



■文部科学大臣奨励賞
小野 七未さん(青森県・小学6年)



■農林水産大臣賞
瀬尾 ひかるさん(長崎県・小学4年)



■文部科学大臣奨励賞
山本 実南さん(愛知県・中学1年)

■JA共済全国小・中学生交通安全ポスターコンクール

小・中学生の皆さんを対象にした交通安全ポスターコンクールです。図画工作・美術教育の発展と、交通安全の大切さを幅広く社会に訴えることを目的に交通安全ポスターコンクールを実施しています。子どもたちの願いが書き込められた作品は、心にひびく秀作ぞろいです。



■内閣府 特命担当大臣賞
松元 結奈さん(群馬県・小学4年)



■農林水産大臣賞
政倉 春菜さん(鹿児島県・中学2年)



■警察庁長官賞
大石 昂さん(岡山県・小学1年)



■文部科学大臣奨励賞
津久井 裕仁さん(栃木県・小学5年)

■「小・中学生 書道・交通安全ポスターコンクール」応募点数

平成23年度書道コンクールは55回目、交通安全ポスターコンクールは40回目を迎え、質・量共にわが国屈指のコンクールに成長しました。

これまでの応募点数

書道 **4,700**万点以上
交通安全ポスター **800**万点以上

年度	21	22	23	累計
書道	1,375,165	1,420,540	1,409,015	47,778,186
交通安全ポスター	164,021	157,608	159,992	8,117,334

※累計は書道:昭和32年より 交通安全ポスター:昭和47年より

22 地球環境を守るために CO₂削減への取り組み

地球温暖化防止のための新たな「国民運動」 「チャレンジ25」に取り組んでいます

2005年2月16日に「京都議定書」が発効し、日本は2008年から2012年の間にCO₂などの温室効果ガス排出量を1990年に比べて6%削減することが義務づけられ、さまざまな対策を進めてきました。2009年9月、ニューヨークの国連気候変動サミットにおいて、わが国の目標として、温室効果ガス排出量を2020年までに1990年比で25%削減することが表明されました。「チャレンジ25キャンペーン」は、これまでの地球温暖化防止のための国民運動「チーム・マイナス6%」から、よりCO₂削減に向けた運動へと生まれ変わり展開するものです。JA共済でもこの運動に参加して、全職員・職場で運動に取り組み、また組合員の方や地域の方々へのPR活動を展開していきます。



http://www.challenge25.go.jp/about/about_c25/index.html



■チャレンジ25キャンペーンが推進する6つのチャレンジ

Challenge1 ーエコな生活スタイルを選択しようー 例え、クールビズ、ウォームビズ、MYバッグ、... etc. あなたもきつと、温暖化防止のECOアクションをはじめますか? ☆☆☆ ☆☆☆	Challenge2 ー省エネ製品を選択しようー 購入時に迷ったときは、より「エネルギー効率の高い製品」を選択!これが温暖化防止「チャレンジ」たちの新常識です。 ☆☆☆ ☆☆☆	Challenge3 ー自然を利用したエネルギーを選択しようー 太陽。風。水。 自然界に存在する力を利用することは、温暖化をとめる方法の一つです。 ☆☆☆ ☆☆☆
Challenge4 ービル・住宅のエコ化を選択しようー 心地よい快適な空間をつくること、実はエコなんて?! そんな夢のような温暖化をとめる方法があるって、ご存知ですか? ☆☆☆ ☆☆☆	Challenge5 ーCO ₂ 削減につながる取組を応援しようー CO ₂ 削減につながる、さまざまな社会の取組を知ってください。そしてこの温暖化防止の心強い取組を応援してください。 ☆☆☆ ☆☆☆	Challenge6 ー地域で取組む温暖化防止活動に参加しようー 温暖化は一人の問題ではなく、この地球に住む私たちみんなの問題。仲間や地域の人たちとともに、温暖化防止にチャレンジしましょう。 ☆☆☆ ☆☆☆

食から健康・農業・環境を考える

■「みんなのよい食プロジェクト」

日本の農家とJAグループ、そして皆さまと一緒に「よい食」について考え、行動するプロジェクトです。 <http://www.yoi-shoku.jp/>

「よい食」を実行する 4つのポイント

- 健康な体について考えよう!
まずは「どうしたら健康になれるのか」を考えることが、「よい食」への第一歩です。
- 産地の自然環境を見つめよう!
地球温暖化などが原因で、世界中の農作物が打撃を受けている現在、環境を守ることが、農業にとって重要になっています。
- 地産地消に取り組もう!
栄養価も高く体にもよい、地元産の新鮮な野菜やお肉。また輸送コストも削減できるので、環境にもやさしい取組みです。
- 自分の「よい食」宣言をしよう!
「残さず食べる」「国産野菜を食べる」など、よい食を実行するための宣言をしましょう。

地産地消に取り組み、食品の輸送距離を減らせば、CO₂も減らせます

■フードマイレージ

<http://www.food-mileage.com/>

フードマイレージは「CO₂100グラム=1poco(ポコ)」と定めた、食べものの輸送距離に基づく単位です。輸送距離が短いとCO₂の排出量は少なくなるため、意識して国産食材を選ぶことは地球温暖化防止にもつながるエコ活動になります。

	比べてみよう! CO ₂ 排出量		
	国産食材	輸入食材	CO ₂ 排出量の差
食パン1斤	0.2	1	0.8
アスパラガス1本	0.04	5.34	5.3

単位:poco

23 地球環境を守るために リボンキャンペーン

クルマの部品補修&リサイクルのための リボンキャンペーンを実施しています

産業廃棄物が大きな問題となっています。JA共済では資源の有効活用や地球環境保護の観点から「補修できるものはなおして使い、補修できないものはリサイクル部品を使用する」という運動に丸となって取り組んでいます。

JA共済では資源の有効活用と地球環境保護を目的とした運動を「リボンキャンペーン」と名づけ、毎年実施しています。この運動では、事故の修理時ばかりではなく、広く一般的な修理や車検の時にも、クルマの損害箇所については新品と交換せずに、補修したりリサイクル部品を使っただけのよう啓発活動を行っています。JA自動車共済の年間の共済金支払件数は約67万件、共済金支払総額(車両・対物合計)は1,471億円にも達しています。補修や、リサイクルを活用することは、組合員・利用者の皆さまに今後も安い掛金で安心して加入していただくためにも有効なことです。

■補修率の推移(年度計)

部品	23年度	22年度	21年度
ドア	55.6%	55.8%	55.2%
フロントフェンダー	47.2%	46.3%	45.9%
ボンネット	39.6%	39.3%	39.3%
バンパー	19.5%	19.6%	19.8%

Comments

JA共済の地域貢献活動へのメッセージ



辻 哲夫【つじてつお】

【経歴】

1971年 東京大学法学部卒業

1971年 厚生省入省

厚生省社会局老人福祉課長、保健局国民健康保険課長、年金福祉事業団資金運用事業部長、保険局企画課長、大臣官房政策課長、大臣官房政策課長大臣官房審議官、厚生労働省年金局長、大臣官房長、保険局長、厚生労働審議官、内閣官房内閣審議官(内閣官房副長官補付)併任

2006年9月1日 厚生労働事務次官

2007年8月31日 退官

現在、東京大学高齢社会総合研究機構特任教授

【社会的活動】

健康生きがい開発財団理事長、東京医科大学客員教授

辻 哲夫

Tetsuo Tsuji

(東京大学 高齢社会総合研究機構特任教授)

JA共済の地域貢献事業がさまざまな工夫とたゆまぬ努力により進められていることにまず心より敬意を表します。

これまで社会保障政策一筋で歩んできた立場から、この地域貢献事業の位置づけについて一言コメントさせて頂きたいと思います。

日本は、今、歴史上経験をしたことのない時代を迎えています。

少子高齢化が進み、世界第一の高齢化先進国となりました。かつてのような経済成長は期待できず、社会の構造もずいぶん変わりました。

農家世帯も専業世帯は減り、3世代世帯も減り、かつての安定していた地域社会の構造もずいぶん変容しています。

どのような国を展望したらいいのでしょうか。

もちろん、産業政策、とりわけしっかりした農業政策と次世代の育成を含めた社会保障政策を推進することも不可欠です。

皆でそのような政策が着実に遂行されるような国を作っていきたいと思いますが、それだけでは私たちは幸せになれません。国の基は、そこに住む我々国民であり、その国民がどのよう

な生き方をしようとしているのかが今問われているのだと思います。

最も大切なのは、私たちがしっかり自分の健康を守り、働き、よい家庭を築くということと併せて、お互いに孤立することなく人と人とが支え合う、信頼関係のある地域社会を作ることではないでしょうか。

この自立と連帯の精神こそが国の土台であり、これが各地域で維持されれば、つらいことがあっても今の厳しい状況を受け止め、明日に向かっていけると思うのです。

共済制度はそのような精神性により成り立っていると思います。とりわけ農業という地域に根付いた連帯の精神を土台にしたJA共済制度に強い期待を抱いています。

共済制度は、不慮の死亡、病気、火災、自動車事故といった自分では左右できないいわゆる事故(リスク)に備えて掛け金をかけ、事故が発生すると給付(お金)が出る仕組みですが、給付が出るだけで話は終わりません。助け合いの仕組みとして、本当に皆の幸せを望むのであれば、そのような事故が起こらないのが一番であ

り、また事故が起こった後も大丈夫かと心配するのが自然なことです。それが地域貢献事業の仕組みです。この二つの仕組みが共済制度の車の両輪に例えられる所以です。保険原理に基づく単なる経済合理性だけでなく、その底にある助け合いの精神が常に大切にされ、それを事業の実施の過程で確認し続けることが必要です。

元来、農協運動は、昔から地域で農業を生業としてきた人々が、大きな産業構造の変化の下で農業を守るためにできた助け合いの運動だと聞いています。その土壌の下の共済制度であるがゆえに、地域貢献事業が本来の役割を果たせるよう、常にその検証に努められている皆様の御姿勢に重ねて敬意を表したいと思います。

常に時代の状況に応じた課題を見出し、一層の創意工夫を凝らして地域貢献事業を推進されますよう祈念しております。

ムーログ！「ちいきのきずな」

「ムーログ」とは、映像(Movie)とブログ(Blog)を組み合わせた新しい形のインターネットサイトです。「ちいきのきずな」では、ムーログを使って地域・農村が抱える問題を解決していこうとする人びとの「力強く、心温まる」取り組みを紹介しています。

JA共済のホームページ(<http://www.ja-kyosai.or.jp>)の「ちいきのきずな」からでもご覧いただけます。



3枚組DVDBOX

力強く、あたたかい物語に
逢いにきてください。

「こんにちワン、
介助犬です」

「ふれあい
介護タクシー」

「ドライビング
シミュレーター
きずな等」

ムーログってなんなの？
Movie(映像)+Blog(ブログ)+Movie Blog(動画ブログ)。
ムーログの中心は、その映像です。
映像とブログを組み合わせた新しい形のインターネットサイトは、
見て納得！読んで納得！

「ちいきのきずな」には、やさしさとぬくもりがいっぱい
郷土のテレビ局に放映される大人気番組「ちいきのきずな」の
スタッフがムーログサイト「ちいきのきずな」を通して、地域の課題
解決を促す内容で、地域・農村が抱える問題を解決しよう
とする人々の取り組みを紹介しています。

「サンドアート」CMをご存知ですか？

「サンドアート」とはガラス板にまいた砂を指先で変化させ、風景や人物を表すもので、砂から伝わる自然で暖かいタッチとガラス板から透過する光によって作り出される幻想的な雰囲気が大変人気です。JA共済ではこのサンドアートを使って交通安全啓発や介助犬をテーマにしたCMを作成しました。現在は3種類のCM(「身近な場所で」篇、「自転車の安全」篇、「出会えてよかった」篇)が放映されています。JA共済の地域貢献活動ホームページ(<http://social.ja-kyosai.or.jp>)の「地域貢献活動ライブラリ」ではCMはもちろん、メイキング映像も公開中なので、是非一度ご覧ください。



①道を歩く人と、



④なれるんだらう。



②道を走る車の間で、



⑤私たちは、各地で自転車の交通安全教育などに
取り組んでいます。



③自転車は、どれだけ安全な乗り物に



⑥ここから安全に。ここから安心に。

Information

全国の各都道府県において、地元に着したさまざまな地域貢献活動を行っています。

安全・安心で、豊かな暮らしを。地域における 交通事故特別対策「地域の安全・安心プロジェクト」

都市部と比べ交通事故が少ない農村地域では、都市部ほどの交通事故対策が行われていない状況にあります。このため、地域に根ざしたJA共済が、地元の警察や交通安全協会などと連携し、地域ご

とに必要なかつ有効な交通事故特別対策を実施することにより、安全・安心な地域づくりに貢献します。

また、取り組みや主旨の理解促進、農村地域の実態等を広く知らしめる取り組みも行っています。

「地域の安全・安心プロジェクト」における主な取り組み

安全な地域づくり 交通事故の防止	地域における交通安全インフラ整備等	<ul style="list-style-type: none"> ● カーブミラーの設置 ● 反射材の配布
	地域の交通安全意識を高める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ● テレビ・ラジオ・新聞等を活用した交通安全意識を高める取り組み ● 交通安全教育指導
暮らしを守る地域づくり 交通事故被害者が安心して暮らせる地域づくり	交通事故現場での救急救命措置向上の取り組み	● AEDの設置
	救急医療体制の確保	<ul style="list-style-type: none"> ● 救急車の整備 ● ドクターヘリの運営支援
	地域における救急救命率向上の取り組み	● 救急医療施設の整備・管理運営支援
自動車事故被害者対策	交通事故による障がい者等の社会復帰の促進支援	● 介護施設の整備・運営支援
	交通事故被害者の生活支援	● 地域の交通事故被害者支援団体への支援



AED(自動体外式除細動器)



反射材グッズ



交通安全キャンペーンについて

JA共済連青森が実施している交通安全キャンペーンは、平成16年から県本部職員による社会貢献活動の一環として、「夏・冬の交通安全県民運動」と「秋の全国交通安全運動」の期間にあわせ実施しており、平成23年度は8回目の開催となりました。

本キャンペーンでは、JA共済が実施している交通事故防止に向けた4つの社会貢献活動(交通安全教室(幼児向け・高齢者向け)、安全運転診断、介助犬の育成・普及支援活動)を紹介するチラシや交通安全グッズ等を配布し、交通事

平成23年度キャンペーン実施日

	運動期間	キャンペーン実施日
夏の交通安全県民運動	平成23年7月21日から7月31日	7月21・27日
秋の全国交通安全運動	平成23年9月21日から9月30日	9月21・28日
冬の交通安全県民運動	平成23年12月11日から12月20日	12月14・20日

故から地域住民を守るための呼びかけを行っています。

あわせて交通安全被害者への救済の一環として、平成16年度から交通事故被害者支援活動(募金活動)を行っています。平成23年度までの募金総額は約20万円とこれまでに多くの方からの募金があり、交通安全被害者支援団体への寄付を行っています。

JA共済連青森では、これからも両活動を通じて地域住民の皆さまに対して交通安全の啓蒙を図ってまいります。



「東日本大震災に負けず、JA少年野球大会開催に協賛」

宮城県本部では、県下で開催されるJA少年野球大会開催に協賛しています。平成23年度は東日本大震災の影響で開催を見送ったJAもあったものの、県下14JA中9JAが開催し、131チーム2,000余名が参加、各地で熱戦が繰り広げられました。

東日本大震災により甚大な津波被害を受けた地区においてもJA役職員、チーム関係者の皆さまのご尽力で開催をすることができました。

一生懸命に白いボールを追いかける子供たちの元気な姿は、これからの地域復興に向けた大きな活力となることを確信することができました。

今年度は昨年実施できなかった県下のJA大会を勝ち抜いたチームが一同に集結し宮城県で一番の少年野球チームを決定する県本部主催の「JA共済少年野球宮城県大会」も復活開催することとなりました。

今後も野球大会を通じ、地域少年の健全育成と交流を図ることで、「人と人の絆」を大切にする地域社会づくりに積極的に取り組んでいきます。



「役職員の地域貢献活動 県立敷島公園の美化活動」

群馬県本部では、平成23年11月19日、26日、12月4日の3日間、県立敷島公園において今井本部長をはじめ県本部職員112名による「クリーン作戦」を実施しました。「クリーン作戦」は役職員による地域に根差した地域貢献活動で、多くの利用者が訪れる公共施設の清掃・美化を目的として、平成20年度より実施しています。

敷島公園は、約2,700本の松林や7,000本のばらが咲き誇るばら園、またザスパ草津のホームグラウンドの陸上競技場やサッカー・野球場、テニスコート、屋内外プールなどがあり広大な面積を誇ります。この公園を訪れる人びとに気持ち良く利用していただきたいという思いのもと、園内の落ち葉やゴミ拾い等を行いま

した。広大な敷地であり、その量も非常に多いものでしたが、黙々と収集作業に汗を流しました。また今年度からは駐車場の入り口や園内への花壇づくりを新たに始め、1,900本のパンジーを植えました。集められた膨大なゴミ袋の山、綺麗に植え並べられた花々を見て職員一同、改めて「クリーン作戦」の重要性を認識しました。

群馬県本部では、豊かな地域づくり・きずなづくりを目指し、今後もさまざまな地域貢献活動に取り組んでいきます。



第33回JA共済交通遺児育英資金募金運動の実施

千葉県本部では、平成23年9月21日～10月20日の期間、「第33回JA共済交通遺児育英資金募金運動」を実施しました。この運動は、交通災害に対する支援の一助として、家族を交通事故で失った交通遺児の支援、また交通事故防止を広く呼びかけることを目的に昭和54年から始まりました。

最終日の平成23年10月20日には、JR千葉駅をはじめとする千葉県内主要11駅において交通遺児育英資金街頭募金運動を実施し、多くの方から温かな浄財をいただきました。

これまでの通算募金総額は1億4,750万4,117円となり、寄せられた浄財は県内の交通遺児の勉学奨励金、育英資金として千葉県交通安全対策推

進委員会へ寄附しております。

平成24年度は平成24年9月21日～10月19日に実施いたします。今年度も多くの方々へ呼びかけ、交通遺児の支援と交通安全啓発に努めてまいります。



富山県本部

「みんなできれいに☆せんまいけ大作戦」に参加！
～みんなで守ろう！美しい自然、きれいな海！～

富山県本部では、富山県全域で行われる「みんなできれいにせんまいけ大作戦」に平成23年度より参加しています。

これは、県内の山・河川・海岸を対象にした美化啓発運動として富山県が実施するキャンペーンの一環で、平成23年度は7月3日(日)早朝より開催され、富山県本部職員約60名が保養施設「磯はなび」近くの雨晴海岸に集合し、雨晴浜一帯のごみ拾いに汗を流しました。

この海岸清掃には地元自治会・PTA・JA青年部・女性部など各種団体や企業の方々も大勢集合し、また職員のこどもたちも参加しています。このように多くの人びとと力を合わせるにより、少して

も地域の方々のお役に立つことができれば幸いだと感じています。

今回は幸い天候にも恵まれ、清掃活動終了後、きれいになった海岸で海開きの神事も行われました。

富山県本部では、これからも積極的に地域社会に貢献できる活動を行っていきたくと考えています。



福井県本部

みんなで防ごう 負の連鎖を呼ぶ「飲酒運転」
～JR福井駅で呼びかけ～

福井県本部では、飲酒機会の増える年末年始をとらえ飲酒運転撲滅に向けた街頭活動を実施しています。

これは自動車共済・自賠責共済を扱うJA共済として、また、社会的な役割を担う一員として、被害者・加害者のもとより、その家族の人生までも狂わせてしまう飲酒運転を絶対に許してはならないという思いから、平成20年度より継続して取り組んでいる活動です。

23年度は12月12日の朝、県本部職員がJR福井駅構内にて飲酒運転の撲滅を呼びかけました。

準備したポケットティッシュやチラシなどの資料1,000セットは予定より早く配り終え、通勤途中の

サラリーマンをはじめとする道行く方々に広くPRすることができました。

飲酒運転は「飲んだら運転しない」という運転者だけの問題ではなく、「運転する人には飲ませない」「飲んだら運転させない」という、周囲の問題でもあり、今後も「NO!飲酒運転」を積極的に呼びかけていきます。



京都府本部

「JA共済カップ 京都招待少年サッカー大会」と
「JA共済 京都ジュニアサッカーリーグ U-11」に
特別協賛!!

京都府本部では「JA共済カップ 京都招待少年サッカー大会」と「JA共済 京都ジュニアサッカーリーグ U-11」に特別協賛しています。

いずれも小学5年生以下が対象で、毎年、京都招待少年サッカー大会は7月下旬に2日間、他県からも強豪チームを招いて開催しています。京都ジュニアサッカーリーグ U-11は開催期間を前期(4~7月)・後期(10~12月)に分けて、府内5地区で行う「地区リーグ」と、前期の地区リーグ上位チームで行う「京都府リーグ」とを開催しています。

平成23年度は「なでしこジャパン」の女子ワールドカップ初優勝の大快挙に日本サッカー全体が沸き立つなかでもあり、例年以上に盛り上がりました。

京都招待少年サッカー大会は、7月23・24日に開催し、他都府県から招いた強豪7チームと京都府地区選抜5

チームとが猛暑も吹き飛ばすような激闘を繰り広げた結果、「京都市東地区選抜チーム」が見事に優勝を飾りました。

京都ジュニアサッカーリーグU-11は12月24日に京都府リーグの順位決定戦を行い、上位4チームが雪もちらつく極寒をものともせず府の頂点を目指して熱戦を繰り広げた結果、「深草少年サッカークラブ」が見事に優勝を飾りました。

JA共済は今後も、少年少女の健全育成を図る本大会への協賛などを通じ、地域の皆さまが健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりに貢献していきます。



兵庫県本部

ふるさと兵庫の風土に適した植樹活動「ふるさとの森づくり」

北は日本海に面した但馬から、南は淡路島まで、広大な面積と多様な自然を誇る兵庫県。

この大切なふるさとの自然を守り育てたい。

そんな願いから始まった「ふるさとの森づくり」は、JA共済連兵庫事業開始50周年の節目である平成17年度にスタート。植物生態学の第一人者で、横浜国立大学名誉教授の宮脇昭先生監修により実施しています。

「ふるさとの森づくり」で植えるのは、アラカシ、シラカシ、スダジイ、ヤマザクラなどのふるさと兵庫の風土に適した木。

これらの木は土地本来の樹種であるため、長い年月にも耐え、防災・環境保全の機能を果たす本

物の森を作ることができます。

これまでに県内7か所の拠点に植樹した樹木は約32,000本に達しており、平成22年度からは、「1本からの森づくり」をコンセプトに自宅の庭や身近な場所への個人の植樹活動を推進する「苗木配布運動」に取り組んでいます。



島根県
本部

「交通安全街頭活動」 夜光反射材を配布して、交通安全を呼びかけ

島根県本部では職員による地域貢献活動として、平成18年度から春と秋の全国交通安全運動期間中、交通安全運動チラシと夜光反射材などを配布しながら、通勤通学途中の地域の人たちに交通安全を呼びかける街頭啓発活動を行っています。

交通安全運動チラシ、夜光反射材、アンパンマンのポケットティッシュのパックを、春・秋にそれぞれ5,000セット準備。全国交通安全運動期間のうちの2日間、朝はJR松江駅前等で、夕方はイオン松江店入口などで、通行中の人に「夜光反射材を活用してください」と声をかけて手渡しています。

受け取りながら「もらった反射材をベビーカーやバッグに貼って、使わせてもらっていますよ」という

小さな子どもを連れてお母さん。早速、乗ってきた自転車に反射シールを貼ってくれた中学生たち。たくさんの人たちに声をかけながら、この活動が地域の皆さんの交通安全意識の高揚につながっていることを実感し、夜光反射材の活用が交通事故防止に役立つことを願っています。

秋の全国交通安全運動期間には、この街頭啓発活動に加えて、県内JAと連携した、カーブミラー清掃活動も行っています。

山口県
本部

地域の絆を育む「親と子の交通安全教室」

山口県本部では、交通安全に対する意識の啓発・交通ルールの理解を促進し、幼児が交通事故の犠牲者となる悲惨な事故の減少に資することを目的として、園児と保護者の皆様を対象に、県警・地元警察署と連携し、昭和55年から毎年20～25回規模で「親と子の交通安全教室」を開催しています。

保護者の方には、一般的な交通安全に関する事項に加え、地域の事故発生状況を織り交ぜながら地元警察官の方に講話をしていただき、交通安全に対する意識向上に努めていただきます。幼児の交通事故予防に関しては親の意識向上が重要であることから、保護者への啓発活動に力を入れています。

また、幼児向けには交通ルールを学ぶためのアニメ

映画を上映し、親子で一緒に安全な横断歩道の渡り方等を実技指導することで、交通ルールの大切さを楽しみながら身に付けていただいております。

地元警察の方と連携することで、地域に密着した活動を展開でき、地域との絆づくりの一助となっています。今後も親と子の交通安全教室等の交通事故対策活動を展開し、より一層、地域貢献活動に尽力していきます。

熊本県
本部

夜間の交通事故防止を目的に、反射材付マスコット・ステッカー寄贈

熊本県本部では、熊本県警察本部へ熊本県警キャラクター「ゆっぴー」の反射材付きマスコットを2万個、熊本県交通安全協会へ大人気の熊本県キャラクター「くまモン」の反射ステッカーを1万3千枚、県内の高齢者や小中学生に使用していただくため寄贈しました。

ドライバーから歩行者などが見えにくくなる夕暮れ時から夜間にかけて、歩行者や自転車が被害者となる死亡事故が多発しており、この時間の交通事故を防ぐためには歩行者や自転車の存在を、自動車に早く気づかせることが大切です。「反射材用品」を身につけていれば、暗い夜道でも車のライトを反射して、より遠くから歩行者や自転車の存在を

アピールし、交通事故の回避につなげることができます。

今後も、交通安全思想を幅広く社会に訴えていくとともに、地域との絆づくりに取り組んでまいります。

宮崎県
本部

安心・安全を提供し続けて20年!! ～地域貢献活動として定着した「毎朝の交通指導」～

宮崎県本部では、地域の交通事故未然防止の一助となること、また、次代を担う小・中学生が健全で安心して暮らせる地域社会づくりを目指して、JAビルに近い小・中学校付近の交差点での交通指導に取り組んでいます。

この活動は、「地域貢献」と「職場の活性化」を目的に職員間で検討を重ね、その中の取組みのひとつとして、事務所が現在の場所に移転した平成5年から、毎朝全職員交代で、交差点二か所にて実施しています。

開始から20年目を迎えたこの活動は、すっかり地域に定着し、登校する子どもたちも職員と言葉を交わすようになり、今では、子どもたちはもとより、保護者や先生方からもお礼や感謝、さらには励ましのお手紙が寄せられるようになりました。

また、この活動については地域に広く認知され、これまでに各団体から表彰を受けたほか、県知事からも感謝状をいただいています。

宮崎県本部では、子どもや高齢者に優しい宮崎県を目指し、引き続き県・県警察等各団体と連携を図りながら、JAと一体となって交通安全啓発活動を続けてまいります。



国境を越えた地域貢献活動「きずなチャリティ」

全国本部では、家庭で使われなくなった衣類やランドセル、玩具などを持ち寄り、NGO(非政府組織)や福祉団体を通じて、アフリカの難民キャンプをはじめ物資を必要としている各地域に寄贈する、リサイクルと地域貢献活動を兼ねた「きずなチャリティ」を平成21年度から実施しています。平成23年度においては、平成24年1月25日に役職員61名が参加し、支援物資の梱包作業を行いました。

支援物資は、衣料品3,219点、使用済み切手4,731点、文房具・ランドセル・カレンダー等2,501点な



梱包作業に取り組む職員

ランドセルは青空教室の子どもたち1人ひとりに手渡されます

ど、合計12,000点、ダンボール326箱もの寄贈品が集まりました。

また、これらを海外に輸送するための募金活動も行い、56万3,866円の寄付金が集まりました。

衣料品・文具等は、NGO団体マザーランド・アカデミー・インターナショナルを通じ、西アフリカのマリ共和国や難民キャンプ等、使用済み切手は、日本キリスト教海外医療協会を通じ、アジア・アフリカへの海外医療支援、また、ランドセルは、財団法人ジョイセフを通じ、アフガニスタンやモンゴルの子どもたちの通学用カバンとして役立っています。

全国本部では、JAが理念としている「協同」「相互扶助」の精神を大切に、助け合い・人と人の絆を大切にしながら、今後も地域貢献活動に積極的に取り組んでいきます。

自分たちの働く地域への貢献活動「千代田区内清掃活動」

全国本部では、23年11月と12月に、役職員による地域貢献活動として、JA共済ビルのある千代田区周辺の清掃活動を行いました。

「千代田区一斉清掃の日」である11月7日(月)は、午前8時から町内会および近隣企業とともに、横井理事長をはじめ約110名の役職員が参加し、平河町二丁目周辺の清掃活動を行いました。参加した役職員はJA共済のロゴが入った揃いのジャンパーを着用し、歩道や植え込みに落ちているタバコの吸殻や空き缶などのゴミを拾いました。

12月17日(土)には、職員とその家族47名が「清掃ウォーキング」として、千代田区内の約4kmの道のりを2時間かけて歩き、歩道などのゴミ拾いを行いました。途中の弁慶橋では、水質浄化に効果のあるEM団子をお堀に投げ込みました。

自分たちの働く地域を自分たちの手で美化する貢献活動を、これからも役職員一体となって行ってきたいと考えています。



都道府県独自の地域貢献活動実施概要

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
北海道	交通事故対策活動	交通安全運動街頭キャンペーン	地域住民	交通安全運動週間期間中に、街頭でノベルティを配布し交通安全を通行人に対し呼びかける
	その他の活動	次世代対策助成	組合員およびその直系家族	子どもが誕生した場合と児童が小学校に入学した場合に記念品の贈呈
青森	交通事故対策活動	交通安全運動街頭キャンペーン	地域住民	夏・秋・冬の交通安全運動週間期間中に、街頭でチラシ・ノベルティを配布し交通安全を通行人に対し呼びかける
	その他の活動	JA共済「子ども110番の車」	地域の子どもたち	県本部およびJAの業務車両に「防犯標語」を貼りつけて運行し、事件・事故に遭いそうな子どもたちを救助し、警察へ通報する
岩手	交通事故対策活動	高規格救急車の寄贈	県内各消防組合	被災地域の消防組合へ3台寄贈
		ドクターヘリ搭載器機・備品、救急医療機器購入資金等の寄付	岩手医科大学	農村地域における緊急医療施設と緊急医療搬送体制の整備を図る
		交通安全指導車・交通安全資機材の寄贈	地方自治体	被災地域での交通安全普及に貢献するため、指導車12台とミニ信号機セット等を寄贈
		交通安全教育用器材(プロジェクター)の寄贈	県内小・中学校 高等学校 特別支援学校	学校での交通安全普及・交通安全意識の向上に貢献することを目的に、県下全小・中・高・特別支援学校676校へ寄贈
		交通安全啓発活動		交通安全意識の啓発と交通事故防止の徹底を図るため、県・県警へ交通安全対策啓発資材の寄贈や広報宣伝を実施
文化・スポーツ活動	JA共済児童生徒作品コンクール(作文の部・絵画の部)	県内小・中学生	相互扶助・思いやりの精神を次代に伝えていくとともに、図画や作文教育に貢献することを目的にコンクールを実施	
	岩手県少年フットサルフェスティバル(協賛)	小学生	交通安全啓蒙活動とJA共済をより広く知ってもらうよう認知度の向上を図る	
宮城	健康管理・増進活動	健康検診	生命共済の加入者で60歳以上の方	「鳴子観光ホテル」「南三陸ホテル観洋」にて健康検診を実施
	交通事故対策活動	交通安全キャンペーン	一般ドライバー	街頭キャンペーン(運転者・歩行者に対する交通ルールとマナーの周知徹底)や広報宣伝(広報車等による広報宣伝活動)を実施
		交通遺児育成奨学金助成	交通遺児	交通遺児を対象に奨学金を助成
文化・スポーツ活動	JA共済少年野球大会	県内小学生	相互扶助の事業理念のもと、主催者・参加者が一体となり、野球大会を通じ地域少年の健全育成と交流を図ることで「人と人の絆」を大切にする地域社会づくりに貢献する	

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
秋 田	交通事故対策活動	交通安全教室開催助成		JAが関係諸機関・団体と連携して開催
		ソーシャルクロック設置		県内各地域にソーシャルクロックを提供
		交通安全教室の開催	保育園児、幼稚園児	ご当地ヒーロー「超神ネイガー」による交通安全教室を開催し、正しい交通ルールとマナーを学ぶ
		交通安全街頭活動	地域住民	秋の全国交通安全運動期間中に県警と連携して、啓蒙活動を実施(チラシ等を配布)
		高規格救急車寄贈	県内各消防署	秋田県総合防災課を通じて3台寄贈
		交通安全教育車の寄贈	秋田県警	交通安全教育車(自転車運転疑似体験シミュレーター、運転適性検査機搭載)を寄贈
文化・スポーツ活動	次世代対策助成		学童野球大会を開催	
山 形	交通事故対策活動	カープミラー設置		組合員を交通事故から守り、交通事故の未然防止を目的に市町村に寄贈
		ソーシャルクロック設置		県内各地域にソーシャルクロックを提供
		スポットフラッシュ設置		県内通学路に100か所(200個)設置
		高規格救急車の寄贈		広域行政組合を通じて2台寄贈
		高齢者交通安全教室開催	地域住民	交通安全協会に協賛し開催
文化・スポーツ活動	JA共済カップ福島県少年サッカー大会	小学生	交通安全啓発と次世代対策(地元TV局と連携)	
高齢者・障がい者福祉活動	元気高齢者対策活動	自立した日常生活のできる高齢者(原則65歳以上)	高齢者の生きがいづくりや健康管理・増進につながる各種活動支援	
健康管理・増進活動	健康管理・増進活動	組合員・地域住民(およびその家族)	(財)福島県農協共済福祉事業団による健康増進活動(検診・講話等)実施支援(日帰り・1泊2日コース)	
福 島	交通事故対策活動(福島県交通事故撲滅キャンペーン・10アクション)	JAグループ統一交通安全キャンペーン	組合員・地域住民	交通安全思想の啓発を通じて事故のない安全な明るい地域社会をつくるため、街頭活動等実施
		交通安全教室開催支援	園児・小中学生、高齢者	各幼稚園・小中学校、老人会等が開催する交通安全教室の開催支援(機材貸与・資材提供)
		安全運転支援装置「安全くん」の設置支援	高齢運転者(65歳以上)	高齢運転者に対する交通事故対策(交通安全協会へ寄贈)
		交通安全川柳コンクール、高校生交通安全CMコンテスト	地域住民、県内高校生	作品応募やメディア放送を通じて、県民の交通安全意識を喚起(地元ラジオ、TV局と連携)
茨 城	交通事故対策活動	JA共済CUP学年別少年サッカー大会	小学生	サッカー大会の実施(茨城県サッカー協会と共催)
		交通安全帽子の配布	小学校新入児童等	交通安全帽子の寄贈
		交通安全宣言書(署名活動)	地域住民とJA、連合会役員	交通事故防止を訴える秋の全国交通安全運動に呼応して、交通安全宣言書を県下JA、関係団体をととして署名を集める

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
栃 木	交通事故対策活動	カープミラー設置		組合員を交通事故から守り、交通事故の未然防止を目的に市町村に寄贈
		交通安全に対するPR活動		交通安全に対する意識の向上を図るために、交通安全運動期間にあわせ、新聞広告を行う
	文化・スポーツ活動	JA共済カップミニバスケットボール大会(協賛)	小学生	スポーツを通じて心と体の育成を図るとともに、JA共済をより広く知ってもらうよう認知度の向上を図る
		郡市町対抗駅伝競走大会(協賛)		スポーツを通じて心と体の育成を図るとともに、JA共済をより広く知ってもらうよう認知度の向上を図る
群 馬	文化・スポーツ活動	JA共済カップミニバスケットボール大会(特別協賛)	小学生	スポーツを通じて心と体の育成を図るとともに、JA共済をより広く知ってもらうよう認知度の向上を図る
	交通事故対策活動	新入学児童への交通安全資材の配布	新入学児童	交通事故の未然防止・交通安全思想の普及・徹底を図るため、交通安全ランドセルカバー・腕章・手提げ袋を配布
		交通安全教室	組合員・幼稚園児・小学生	(社)群馬県農協対協と連携し、所轄警察署および交通安全協会に開催を依頼
	役職員の地域貢献活動	県立敷島公園の美化活動	県本部職員	環境保全活動の一環として、公園内の花壇作りと、秋の清掃活動を実施
小さな命を救う活動(物品収集)		県本部職員	年間を通して、「ペットボトルキャップ」「使用済切手」「ベルマーク」を収集。収集した物品は関係機関へ寄付する	
埼 玉	交通事故対策活動	交通安全チャリティ募金活動	地域住民	交通安全に伴う意識の向上を図ることを目的とし交通安全サマーフェスティバルを開催し、交通安全募金をあわせて実施
千 葉	健康管理・増進活動	人間ドック動脈硬化症ドック助成	長期共済5,000万円以上の加入世帯で35歳以上の方	生活習慣病の予防早期発見に努めるため、厚生連で実施する1日コースに対し助成
		集団健診活動実施助成		厚生連が斡旋した施設で実施。健康管理活動の健全な発展に資するために交付
		健康管理集会開催助成		健康管理に対する認識を高めるため、医師等による講演会または一般健康管理に関する集会を開催
千 葉	交通事故対策活動	JA共済交通遺児育英資金募金	18歳未満の交通遺児となった方(または世帯)	9月21日から10月20日まで交通遺児育英資金募金活動を実施。最終日には県下主要JR駅構内において、JA・千葉県等協力団体と街頭募金を実施
		交通安全運動		①千葉県・千葉県警察本部等と連携を図り「春・秋全国一斉交通安全運動」「夏・冬交通安全運動」「JA共済全国一斉交通安全運動」へ参加 ②千葉県が主催する「黄色いリボン」貼付運動に(交通事故防止を願うことを目的)参加
		こども自転車大会	小学生	交通安全こども自転車千葉県大会を後援
東 京	文化・スポーツ活動	JA東京カップ東京都5年生サッカー大会	小学5年生	サッカー大会の実施(東京都少年サッカー連盟および(公財)東京都サッカー協会と共催)

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
神奈川	健康管理・増進活動	健康管理活動	組合員および共済契約者	生活習慣病と各種疾患の原因を発見するため、「人間ドック」「生活習慣病検診」を厚生連と連携して実施
		保養健診活動	組合員および共済契約者ならびにその家族	健康診断および集団保養の機会を提供し、福祉活動の向上に寄与
		保養施設利用	組合員および共済契約者ならびにその家族	「あしがら荘」(あしがら健康センター)を利用した健康増進活動を実施
	交通事故対策活動	交通安全啓発活動	地域住民	県・県警へ交通安全対策啓発資材を寄贈
	文化・スポーツ活動	小学生バレーボール大会(協賛)	小学生	次世代層および地域住民とのつながりの充実・強化ならびにJA共済のイメージアップを図ることに、JAの推進活動を支援する
JA共済小・中・高校生書道コンクール		小学生・中学生・高校生	相互扶助・思いやりの精神を伝えていくとともに児童・生徒の書写教育に貢献することを目的として実施	
山梨	交通事故対策活動	交通安全教室	組合管内の保育園・幼稚園および小学校等	「交通安全教室」を開催
		新入学児童交通安全キャンペーン	新入学児童	県下の新入学児童を対象に交通安全下敷きを配布
		春の全国交通安全週間キャンペーン	歩行者・運転者	県に交通安全啓発用「花の種」を寄贈。駅前にて街頭キャンペーンを展開し交通安全を呼びかける(市・警察・テレビ局との協賛)
長野	交通事故対策活動	交通安全教室等	組合員およびその家族	交通事故の防止および交通安全思想の啓発を図るためのJA共済交通安全教室等の開催を支援
新潟	健康管理・増進活動	健康教室	組合員で40歳以上の方	健康教室を通じて健康診断・食生活指導を実施
		健康管理・増進活動助成		JAが実施する「人間ドック、脳ドック、集団検診、健康教室、健康・介護教室、軽スポーツ」への助成
富山	交通事故対策活動	カーブミラー設置		組合員を交通事故から守り、交通事故の未然防止を目的に市町村に寄贈
		新入学児童交通安全キャンペーン	新入学児童	県下の新入学児童を対象に交通安全ファイルを配付
		交通安全運動	地域住民	秋の交通安全運動に併せて、JAへ交通安全啓蒙資材(交通安全のぼり旗・風船等)を配布
	健康管理・増進活動	健康管理活動	共済契約者およびその家族	健康を守り疾病の予防と早期発見に寄与するため、JAが実施する人間ドックに対し助成
	役職員の地域貢献活動	みんなできれいにせんまいけ大作戦	県本部職員	海岸清掃活動に参加

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
石川	健康管理・増進活動	いきいき健康増進活動	共済契約者およびその家族で60歳以上の方	高齢期の健康管理について認識を深めるため、「ホテル翠湖」にて健康教室・交通安全教室・軽スポーツ・体験農園等を実施
	交通事故対策活動	交通遺児援助		健全な育成を願い援助活動を実施
	役職員の地域貢献活動	クリーンビーチいしかわ	県本部職員	海岸清掃活動に参加
福井	健康管理・増進活動	ふれあい健康教室	組合員および地域住民	健康管理を促進するため、1泊2日で開催
		人間ドック経費助成	JA組合長より申請のあった方	厚生連の定める要領にて「人間ドック」を受診
岐阜	交通事故対策活動	JA共済交通安全チャリティー募金		交通遺児支援募金運動を実施
		こども新聞(岐阜新聞)への交通安全広告掲載		全国秋の交通安全運動にあわせ、新聞記事によりJA共済の交通安全活動を幅広く告知し、交通安全を呼びかける
静岡	健康管理・増進活動	人間ドック	生命系長期共済3,000万円以上の加入者	共済加入者の健康管理のため、厚生連が運営する「健康管理センター」等にて人間ドックを実施したJAに助成する
	交通事故対策活動	カーブミラーの寄贈	静岡県	地域住民の交通安全に寄与する
		交通安全啓発活動	地域住民	交通安全ポスター金賞作品を掲載したエコーはがきを発売するとともに、エコーはがきを活用した啓発活動を実施する
文化・スポーツ活動	静岡県少年軟式野球大会への特別協賛	県内学童のクラブチーム	少年軟式野球大会を通じて、児童の健全な心身の育成と体力の増進を図る	
愛知	健康管理・増進活動	健康管理集団保養	組合員とその家族	健康管理指導および保養活動を「グリーンホテル三ヶ根」で開催し、健康講話、健康相談、血圧測定、骨粗しょう症検査等を実施
	交通事故対策活動	母と子の交通安全教室	保育園児、幼稚園児およびその保護者と子供会	交通安全教室を開催
三重	交通事故対策活動	交通安全啓発活動	地域住民	県警等公共団体への交通安全対策用品の寄贈
	文化・スポーツ活動	JA共済カップ三重県少年サッカー大会(U-11)	小学校5年生以下	サッカーを通して、次世代を担う少年達の健全な心と体の育成を図る
		三重県家庭婦人バレーボール大会	地域住民	県内の家庭婦人バレーボールチームが参加する大会に協賛
役職員の地域貢献活動	伊勢湾森・川・海のクリーンアップ大作戦	県本部職員	県の海岸清掃活動に参加	
滋賀	交通事故対策活動	交通安全運動	地域住民	春と秋の交通安全運動にて交通安全ノベルティーの配付およびラジオにて交通安全CMを放送
		交通安全運動	地域住民	県内三大花火大会にて交通安全標語入りうちわの配布およびラジオにて交通安全CMを放送

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
京 都	文化・スポーツ活動	JA共済京都ジュニアサッカーリーグU-11への協賛	小学校5年生以下で京都府サッカースポーツ少年団連盟所属チームの選手	サッカーを通じて少年少女の健全育成および地域社会とのつながりの強化を図るとともに、JA共済の認知度向上を図る
		JA共済カップ京都招待少年サッカー大会への協賛	小学校5年生以下で京都府サッカースポーツ少年団連盟の地区別選抜チームの選手または、他県からの招待チームの選手	
	交通事故対策活動	AEDの寄贈	JA	緊急事態に対応できる環境と設置場所の認知を行う
		交通安全イベント		京都府警察本部、木津川警察署およびKBS京都とともに交通安全啓発活動を実施
		LEDの寄贈	JA	交通安全に関する情報提供や交通安全スローガン等の掲示により交通安全に対する意識を高める
		交通安全指導用車両の寄贈	JA、交通安全協会	組合員・地域住民への交通安全の啓発により交通事故の未然防止を図る
		絵本シナリオコンテスト	京都府内在住者	幼児・園児の交通事故防止を目的に交通安全をテーマとしたコンテストを実施
	絵本(ちいさなこうさてん)の寄贈	京都府内幼稚園・小学校	幼児・児童の交通事故防止を目的としてコンテストの大賞作品を絵本にして寄贈	
	その他の活動	長寿記念品の贈呈	組合員とその家族で米寿および白寿を迎える方	「敬老の日」に長寿のお祝いメッセージと記念品を贈呈
	大 阪	健康管理・増進活動	生活習慣病巡回健康診断	組合員・生命共済契約関係者
生活習慣病検診の事後保健指導			有所見者	保健指導
人間ドックによる健康診断			組合員・生命共済契約関係者	巡回健康診断の補完として人間ドックを実施
交通事故対策活動	交通安全キャンペーン		交通安全運動期間にスローガンを使用し、交通安全意識の啓発と交通事故防止の徹底を図るため、総務省・大阪府交通対策協議会・大阪府警察本部が実施する年間キャンペーンに呼応して展開	
兵 庫	健康管理・増進活動	高齢者介護技術研修会	JA女性会会員・登録ヘルパー等	家庭内における身近な介護技術を習得
		「あさぎり荘」利用割引	組合員	保養施設「あさぎり荘」の幅広い利用を促進
	交通事故対策活動	AEDの寄贈	JA	組合員・地域住民を交通事故から守り、万一の際に応急的な救命措置を施すためAEDを寄贈
		交通安全1日イベント		兵庫県警察および交通安全協会とともに交通安全啓発活動を実施

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
兵 庫	役職員の地域貢献活動	JA共済ふるさとの森づくり	組合員および地域住民	県内7か所の植樹が終了し、平成22年度からNPO団体等への苗木贈呈により、民間または個人による植樹活動を展開し、「森づくり」のさらなる広がりを図る
	その他の活動	農協共済物故者慰霊祭		不幸にしてお亡くなりになられた物故者の霊を慰めることを趣旨として実施
奈 良	交通事故対策活動	交通安全教室	JA	交通安全教室を開催したJAに対し、経費の一部を助成
		交通安全啓蒙用エコバッグの寄贈	組合員および地域住民	交通安全の啓蒙および夜間の交通事故防止のため反射材付エコバッグを寄贈
和 歌 山	健康管理・増進活動	健康診断(基本健診)	組合員および地域住民	疾病の予防と早期発見に寄与するため実施
		がん検診	組合員および地域住民	早期発見・早期治療によりがんの予防
		骨密度測定(骨粗しょう症予防)	組合員および地域住民	骨粗しょう症予防についての理解を広めるため、イベント等で「骨密度測定」を実施
		健康教室	共済契約者およびその家族、地域住民	健康診断後の事後指導および講話、生活習慣病予防教室、健康づくりのための講演を開催
		軽スポーツ活動	JA女性会・助けあい組織等	「クアハウス白浜」を利用し健康増進に取り組む
		「クアハウス白浜」利用割引	共済契約者および組合員とその家族	保養施設「クアハウス白浜」の幅広い利用を促進
交通事故対策活動	交通安全レインコートの寄贈	県内小学校	子どもを交通事故から守る「学童用交通安全レインコート」の寄贈	
	交通安全子供自転車大会への後援実施	交通安全協会	JA共済の認知度の向上を図るとともに、子どもに正しい自転車の乗り方を学んでもらうことによる交通安全意識の向上	
文化・スポーツ活動	学童軟式野球大会実施(協賛)		JA・JA共済の認知度の向上を図るとともに、野球を通じた健全な少年の育成	
役職員の地域貢献活動	「JA共済 絆の森」づくり	県本部全職員	健康で安心して暮らせる豊かな環境づくりの実現に向け、平成19年度に「JA共済 絆の森」の植樹を行い、植樹後10年間にわたり森林育成活動を実施	
鳥 取	健康管理・増進活動	胃集団検診	40歳以上の共済加入者(被共済者)等でJAが適当と認めた方	胃病の早期発見・早期治療を促進する
		婦人集団検診	30歳以上の共済加入者(被共済者)等でJAが適当と認めた方	婦人疾病(子宮ガン、乳ガン、甲状腺ガン)の早期発見・早期治療を促進する
		リスター倶楽部(Aコース)	55歳以上のJA組合員・共済加入者およびその家族で、保養生活に耐えられるものでJAが適当と認めた方	2泊3日の集団生活を通じてストレスの解消とレクリエーションを楽しみながら老後の健康管理を促進する
		リスター倶楽部(Bコース)		1泊2日の集団生活を通じて親睦と健康増進を図る
		ミセス倶楽部	JA女性会役員・会員	生活保障設計に関する意識向上と、地域婦人の健康管理活動として軽スポーツの普及を図る

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容	
鳥取	交通事故対策活動	交通安全教室等	組合員および地域住民	交通事故防止活動につながるイベント、交通安全教室などを実施	
		黄色い手帳運動・キャンペーン協賛	新入学児童	交通事故傷害共済付の「黄色い手帳」を配布	
	文化・スポーツ活動	JA共済むてきカップ学童軟式野球鳥取県大会	県内小学生	次世代を担う学童の健全な心身の育成を図る	
島根	健康管理・増進活動	健康管理活動	組合員・共済契約者およびその家族・地域住民	生活習慣病検診・腹部超音波検診または、巡回人間ドックを実施	
		JA共済ふれあいの集い	共済契約者およびその家族	「ホテル玉泉」宿泊などによる福祉サービス活動を実施	
		JA共済保養施設利用割引	組合員・共済契約者およびその家族	利用割引によりJA共済保養施設の利用を促進	
	交通事故対策活動	黄色い手帳運動・キャンペーン協賛	新入学児童	交通事故傷害共済付の「黄色い手帳」を配布	
		中学生への夜光反射材の寄贈	各中学校	「夜光反射タスキ」または「サイクルヒット」を寄贈	
		カーブミラーの寄贈	各市町村	各JAを通じてカーブミラーを寄贈	
		交通安全対策等		県本部内設置の「交通事故相談所」にて事故相談を実施	
		交通遺児育英奨学金	交通遺児(高校生)	奨学金を支給	
		交通安全街頭活動	地域住民	春・秋の全国交通安全運動期間中に、警察署と連携して啓発活動を実施(チラシ・夜光反射材を配布)	
		夜光反射材の寄贈	県警察本部	秋の全国交通安全運動に呼応して、夜光反射材を寄贈	
		交通事故被害者支援募金	交通事故被害者	県内JAグループに呼びかけて実施	
	集金袋の寄贈	各小学校	各JAを通じて寄贈		
	文化・スポーツ活動	JAカップ学童野球大会		次世代を担う学童が野球を通して、健全な心身の育成と正しい社会マナーを身につけることを願うとともに、地域スポーツの発展に貢献することを目的として開催	
	岡山	健康管理・増進活動	健康増進活動助成	共済契約者・被共済者およびその家族	健康維持・増進を図り、事故防止の補完的役割をはたすため「健診助成」を実施
			交通安全教室	保育園児、幼稚園児、小学生およびその保護者等	こどもへの交通安全教育の徹底と、正しい交通ルールとマナーを学ぶ
交通事故対策活動		交通安全機材の寄贈	県下市町村	交通事故の未然防止のため、カーブミラー、夜行たすき等寄贈	
		交通安全チャリティー募金活動	JAグループ	交通安全の意識高揚を図る。岡山県交通遺児就学援助金へ寄付	
役職員の地域貢献活動	清掃活動	県本部職員	地元のサッカーチームと協力し、清掃活動を実施		

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
広島	健康管理・増進活動	体力測定の実施		「握力、垂直飛び、立位体前屈、肺活量、体脂肪率、血圧」を測定し、自己管理・健康管理を図る
		交通安全教室	幼稚園・保育園の園児、小学生の児童およびその保護者等	交通安全思想の啓発につとめ、交通事故の予防のため開催
	交通事故対策活動	交通安全に関する支援および資材・機材の作成提供等	各団体	交通安全思想の啓発を関連機関と十分な連携をとりながら必要に応じて提供
		環境保全活動	飲料水の水質検査	
山口	健康管理・増進活動	ふれあい講座	中高年者、JA女性部員	外部講師による講演を実施。いきがいをもち、健康維持管理に対する認識を高めることを目的に開催
	交通事故対策活動	親と子の交通安全教室	幼稚園・保育園の園児および保護者	山口県警察本部と連携して開催。園児とその保護者とともに正しい交通ルールとマナーを学ぶ
徳島	健康管理・増進活動	女性のつどい	JA女性部員	外部講師による講演、気功、ガーデニング等を実施
		交通事故対策活動	交通事故相談	
	交通安全教室		幼稚園児およびその保護者	地域社会における交通安全意識を高め、事故防止につとめるため開催
香川	交通事故対策活動	交通安全対策器材(反射シール、反射リストバンド、電動車椅子用反射フラッグ)の寄贈	地域住民	高齢者の夜間交通事故の減少を目的に交通安全協会へ寄贈。県内各地区の交通安全協会を通じて、高齢者に配布を行う
		LEDソーラーライトの寄贈	地域住民	高齢者の交通安全意識の高揚、夜間交通事故の減少を目的に、香川県交通安全母の会連合会へ寄贈。県内各市町の交通安全母の会を通じて、県内の高齢者世帯へ配付される
		AEDの寄贈	JA	地域住民の交通安全思想の普及と交通事故防止および救急救命・人命保護に貢献することを目的に寄贈
	文化・スポーツ活動	香川県ジュニアサッカーリーグ戦への特別協賛	小学生	こどもの心身の健全な育成を図る
		アンパンマンミュージカル	小学校低学年とその家族	こどもの健全な育成を図る
		役職員の地域貢献活動	「フォレストマッチング協働の森づくり事業」への参加(「JA共済連香川の森」づくり)	県本部職員
愛媛	交通事故対策活動	JA共済交通遺児育英募金	交通遺児	交通遺児育英募金運動を実施
高知	健康管理・増進活動	健康管理活動	共済契約者およびその家族	健康管理・健康維持増進を目的とし、人間ドックを受診
		役職員の地域貢献活動	清掃活動	県本部職員
	交通事故対策活動	交通安全傘の寄贈	県内小学生	新入学児童に黄色い傘を配布

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
福岡	健康管理・増進活動	大腸がん検診	組合員ならびにその家族および加入者	各種疾病の予防対策として、早期発見・早期治療を促進
		骨粗しょう症検診		
		腹部超音波検診		
		介護研修会		介護技術の習得を支援
交通安全対策活動	交通安全教室	幼稚園児およびその保護者・老人を対象	交通事故の防止および交通安全思想の啓発を図る	
	文化・スポーツ活動	第47回「JA共済」小・中学生作文コンクール	小学生・中学生	次世代を担う後継者の健全な育成と地域社会の発展を目的に、児童・生徒の創造力を豊かにし、情操教育の一助とする
佐賀	健康管理・増進活動	ことぶき会実施女性学級実施	組合員およびその家族の高齢者	「ホテル春慶屋」にて、心身の健康維持・増進のため、体力テスト・レクリエーション等を実施
	交通安全対策活動	交通安全街頭呼びかけ	地域住民	交通安全県民運動に呼応した街頭での交通安全呼びかけ
長崎	交通安全対策活動	電飾看板設置		交通事故防止と交通安全意識の高揚を図る
		ソーシャルクロック設置		県内各地域にソーシャルクロックを提供
		(財)長崎県育英会への寄附	交通遺児	募金活動を通じて交通事故被害者を支援する
	健康管理・増進活動	レインボー体操教室	JA女性部	地域住民の健康増進に資する
役職員の地域貢献活動	清掃ボランティア		長崎市平和公園において清掃活動を実施し、環境保全に貢献する	
熊本	交通安全対策活動	反射材付きゆっぴーオリジナルマスコット寄贈	地域住民	夜間の歩行者や自転車の交通事故防止を目的に作成し、熊本県警察本部に寄贈。各警察署を通じて、主に県内の高齢者や小中学生に配布
		くまモン反射ステッカー寄贈	地域住民	夜間の歩行者や自転車の交通事故防止を目的に作成し、熊本県交通安全協会へ寄贈。交通安全協会を通じて、主に県内の高齢者や小中学生に配布。
	役職員の地域貢献活動	熊本城周辺清掃活動	地域住民	地域住民のために清掃活動を実施
	文化・スポーツ活動	少年軟式野球・サッカー大会	小学生	JAの主催大会に対する助成
大分	交通安全対策活動	新入学児童交通安全キャンペーン協賛	新入学児童	交通事故傷害共済付「よい子の交通安全手帳」への協賛
		交通安全資材の寄贈	各団体	交通安全啓発活動の一環として県警を通じ各団体へ交通安全資材を寄贈
		交通安全街頭呼びかけ	地域住民	全国交通安全運動に呼応し街頭で安全運転の呼びかけ
文化・スポーツ活動	大分県小学生ドッジボール大会への特別協賛	小学生	次世代を担うこどもの健全な心身の育成を図る	

県本部	大項目	中項目	対象者	目的・内容
宮崎	健康管理・増進活動	集団検診等	共済契約者およびその家族	潜在的疾患の早期発見・早期治療を促進するため、各種検診を実施
		「青島サンクマール」宿泊利用助成	共済契約者およびその家族	健康増進等のため宿泊
	交通安全対策活動	交通安全資材の寄贈	各団体	交通安全の為に資材を配り、交通事故の防止を図る
		高齢者交通安全教室への助成	高齢者	JA主催の高齢者交通安全教室に対する助成を実施
文化・スポーツ活動	交通安全啓発大会		特にこども・高齢者の交通事故防止のため、交通安全への意識向上を図る大会を開催	
	ソーシャルクロック補改修・点検整備助成		ソーシャルクロックの補改修および点検整備をした場合に助成	
役職員の地域貢献活動	中学校バレーボール選抜大会	中学生	バレーボール大会を実施	
	少年サッカー大会	小学生	サッカー大会を実施	
交通安全対策活動	交通指導	小・中学生	登校時の交通防止のため、JAビル周辺で交通指導を実施	
鹿児島	健康管理・増進活動	地域スポーツ活動・次世代向けイベント実施助成	組合員・地域住民	JAが自主的に開催するスポーツ活動および次世代向けイベント開催の支援
	交通安全対策活動	JA共済交通安全教室(母と子・高齢者)	地域の主婦・こども・高齢者	地域の主婦およびこども、高齢者を対象にJAをはじめ、関係機関と連携し交通安全教室を実施
		交通安全運動街頭キャンペーン		春・秋の全国交通安全運動期間中を中心に、警察署の実施するキャンペーンに対し、チラシ・ノベルティを提供するとともに人的協力を行い、街頭で安全運転を呼びかける
		交通安全資材の寄贈	各団体	交通安全啓発活動の一環として県警を通じ各団体へ交通安全資材を寄贈し、交通事故の未然防止を図る
文化・スポーツ活動	いぶすき菜の花マラソン		地域住民をはじめ、参加者の健康維持・増進を図るため、大会に協賛	
	JA共済カップ県レディース秋季卓球大会	鹿児島県卓球連盟に所属している既婚者および30歳以上の女性	卓球連盟と連携し、JA共済連主催の卓球大会を実施	
	鹿児島マスターズ陸上競技選手権	マスターズ・小学生	地域住民の健康維持・増進を図るため、大会に協賛	
沖縄	健康管理・増進活動	検診助成	組合員およびその家族	組合員およびその家族が、沖縄県総合保険協会または県本部が認めた検診機関が実施する一般検診を受診
	文化・スポーツ活動	ポーリング大会	JA女性部員	JA女性部を対象に健康の維持・増進を図る
沖縄県ジュニアサッカー中央大会		小学生	次世代を担う小学生のスポーツ環境づくりと健全育成を促進	